

大
阪
新
聞

自
第
一
号
至
第
十
号

壹

西垣文庫

文庫10

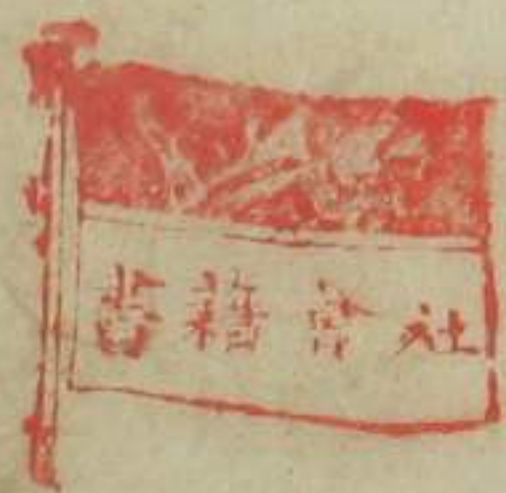
7263





大阪新聞

第一號



明治壬申三月

定價三錢

文庫10 5711

特
文庫10
7263

緒言

今也新聞紙ノ世ニ盛ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カンゾフ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新聞化ノ成世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレナハ社中ノ幸甚之ニ過シ

西嶺文庫

大阪新聞第一号 明治五年申年三月

○西京ノ博覽會ハ去ル十日ヨリ開場ナリシカ昨今餘
程ノ賑ヒニテ日々當地ヨリ上京スル外國人夥シキ趣
ナリ曾テ票告ヲ四方ニ發シテ奇品ヲ募リ又有無交易
ノ通義ヲ擴メントノ一大事ナレハ當地ヨリモ家藏ノ
环物其他賣品此會ニ出スヘシト御布告アリテ許多ノ
奇品妙品或ハ諸國ノ産物等己ニ頃日淀川三十石船三
艘ヲ以輸送シタリト云右ニ付物品募リ集メ方ニ周旋
盡カシタル三名ニ左之通賞セラレタル由

明治五年三月

伏見町 山下 嘉 助

北濱三丁目 山中吉郎兵衛

伏見町 加賀屋松兵衛

其方共儀當府下ヨリ京都博覽會へ物品差出方布告ノ
主意ヲ奉シ諸人ヲ勸奨シ終始奔走盡カイタシ許多ノ
物品差送ル事ニ相運ヒ彼是遂心配神妙ノ至ニ付爲褒
美新幣百二十五錢遣之候事

○長州ノ士有川氏ハ元治元年ノ秋京師ニテ戰死ノ一
人也于時歲十九平常嘗テ自得ノ咏史一篇アリ慷慨必
ス吟セヌニハアラスト今年其老母祭祀ノ々々上京セ

シニ碑碣顯然タト彼詠史一篇ノ世ニ傳ハラサルヲ
歎シテ近世流布スル所ノ振氣篇興風集等ニ追録セン
トヲ計ルト雖事速ニ成ヘキニアラ子ハ暫新聞ニ舉テ
以四海ノ英雄ニ告ントヲ欲スト云

咏史 豊浦縣士族 有川紀綱

事業何期成不成英雄決死在平 註君看三尺湊川石楠
子誠忠今古明

○西京物産引立會社中ヨリ兼テ普魯西人カルク、レイ
マンヘ注文セシ傳便船俗ニ西京丸着津シタリ間余十七
三是ヲ大阪川口ニ浮ヘテ神戸下ノ關其他國々へ出船

セント也其迅速ナル二字間一日本十二里ヲ疾行スト云

出帆所 川口 富島町

○近日ノ内峰山ノ純白牛十二頭ヲ東京ヨリ牽連レ牧

牛及ヒメルキノ製造ヲ関クモノ有ト云

○大阪ハ驛場ニアラスト雖東海道五十三軒ニ慣ヒ此

度陸運會所取建ノ儀願出ルモノ有シヨシ御採用ナラ

ハ人馬繼立自由ニシテ旅客ノ幸甚知ルヘキナリ

○去ル二月廿五日河州道明寺天満宮へ諸人群參セシ

中ニ騎馬ノ士貳人アリテ其甲ハ門前ヨリ下馬シ其乙

ニモ下馬スヘキ昔ヲイヘト用ヒスシテ門内へ乗込ヤ

否馬ハ忽マチ四足ヲ折礎ト計ニ平張タリ群衆ノ見ル

前ナレハハ猶我慢シテ鞭ニ鞭打テ漸馬ハ起立タレ

ト逡巡畏縮ノ色ヲ顯ハシ乙ヲ乗セシマ、門外遙カニ

駈出タリトソ嗚呼此士神威ヲ犯シテ萬人中ニ面目ヲ

失ヒケルソ淺間シト見ル人間ク人云アヘリ

○千金ヲ盗ンテ此節捕ラレシ賊ノ金子ヲ遣ヒ捨シ中

ヲカシキ話アリ彼ハ遠國ノ船子ナリシカ金ヲ得テ後

一ヨ已カ衣裳ヲ呉服店ニ注文シ價直五十圓計リ相渡

ス時其店方ノ手代ニ別ニ金一方ヲ呉遣シタリ就縛ノ

後其趣意ヲ尋問サレシニ金ヲ遣フ時ハ必花トイフモ

ノヲ遣スモノト聞ツルヨシ答ケルトソ

○往日松島ノ往還ニテ四區ノ邏卒ニ捕ヘラレシ賊ニ

モ一笑話アリ邏卒此賊ヲ引倒サント髪ノタバサヲ摑

テエイヤト曳ニ賊ハ中國ノ徒刑場ヲ脱セシモノトカ

ニテ附髪セシヲナレハフット計引拔シヨ彼ノ三保

ノ谷カタメシニハアラストテ或人狂歌ニ

附ツケカミ被ツケカミもヌスビト拔ヌスビトてヌスビト人乃首ヌスビトのちヌスビトをヌスビトめヌスビトはヌスビト

○去ル十一日ハ

神武天皇御例祭ニ付官員ハ朝六字迄ニ生魂社へ恭集

シテ遙拜アリ畢テ八字ヨリ諸人恭拜御差許アリ又同

斷ニ付同日朝七字ヨリ夕四字迄諸人男女ニ限ラス城

中拜見ヲ勝手ニ御差許ナサレタリ此日好天氣ニテ春

色十二分也

因ニ云生魂社ハ豊太閤ノ頃ニハ今ノ天満ノ天神ノ

如ク諸人恭詣モ夥敷一盛場ナリシカ次第寂寥ナリ

シ由古老ノモノ語り傳ヘシヲ聞ツルニ

御一新ノ後御崇敬アラセラレシヨリ諸民尊信スル

取ヲ知テ昔ノ春ニ立歸リ數十株ノ櫻新ラタニ神德

ノ光リヲ和ラケ花下ノ筵ニハ貴賤太平ヲ謠歌シ此

日ノ群衆殊ニ夥シク和樂相賑ヘリ

○當地モ日々ニ開化シテ豪商ノ内其主人ハ素ヨリ番頭手代小者下人ヲ論セス一家ノ男子悉散髮ニ成タルアリ其外市人散髮シテ愉快ヲ稱スルモノ又少カラス

○當地御布令ノ内寫シ

此程南町壹丁目太鼓屋又兵衛借家池田屋又蔵伴米吉儀父又蔵病中ノ折柄猶更職業ヲ勵ミ孝養ヲ可盡處無其儀兩親之教訓ヲ不用身持放蕩孝養ヲ缺而已ナラス剩ヘ不如意ノ親ヘ難題申掛承知不致ヲ憤リ手向ヒハ不致共器物等ヲ破損致シ候始末不埒ニ付處刑申付候

然テ子タル者右休ノ所業有之候テハ大ニ人道ノ戾リ

天地ニ對シ不相濟儀ハ兼テ卑賤ノ者迄モ相心得居可申答ニ候得共尚心得違無之様令告諭候事

壬申三月

○當地ヨリ京都迄鐵道建築仰出サレタリ此御盛舉落成セハ衆庶ノ便宜ハ勿論隨テ大阪ノ繁榮尚一層ノ盛大ヲ増ヘシ

○當地堂島米市帳合場ヲ新タニ歐羅巴風ニテ造營セントノ風説アリ追々開化セハ商法モ極テ盛大ニ成ヘシト云

○昨年中英醫新頓氏橫濱徽毒病院ニ於テ徽毒ノ一書

ヲ記シ日本醫負ノ為ニ之ヲ著ハサント欲シ此書ヲ外務省ニ出シテ刊行ヲ乞ヘル由ナリシカ荻野氏此書ヲ得テ以翻譯シ徽療新法ト名付テ上梓セリ借新頓氏ハ各國中徽療ヲ以振鐸セル程ノ先生ナレハ論說治療ニ確實新妙ニノ未曾聞ナル所多キカ故ニ實ニ先生ニ親炙ノ學フニアラサレハ能ク其意ヲ得サルヘシ右譯者素ヨリ先生ニ從テ能其實ヲ識レル者ニアラサレハ誤譯最モ多クノ之ヲ譯セシハ却テ譯ナキカ優レリトノ説アリ嘆呼惜ヒカナ四方此書ヲ閱スル書生ノタメニ説者ノ一言ヲ舉ルノミ

○横濱二月三十日、新聞ニ舉タル中最モ感スヘク其趣意諸君ニ告タキアリ
 藤澤驛ニ關井喜三郎トイヘルアリ當時横濱元町ニ住居セル中山安次郎ハ十年前召仕ヒシモノナルカ喜三郎ハ不如意相成去ル己年金百兩安次郎ヨリ借用セシモ尚不仕合打續キ其元手サヘ失ヒテ返金ノ手段ナク困却セシニ安次郎ヨリ證文ヲ返シ返濟ノ沙汰ニハ及ハサルヨシ申越タリシヲ深ク相歡ヒ其義ノ世ニ顯ハレサルヲ遺憾ニ思ヒ縣廳ヘモ訴ヘシ上尚新聞ニ出版ヲ頼ミシ由ヲ書載タリ贅者云安次郎カ舊恩ヲ忘レス

其義ヲ知シハ素ヨリ賛歎スヘキ莫ナカラ喜三郎カ其
 真情ヲ歡喜シテ己カ耻ヘキノ筋ヲモ厭ハス人ノ美ヲ
 舉タルコソ又感賞スヘキ事ナラスヤ此人在テ此人在
 リ願ハクハ江湖ノ人皆斯心得アラハ文明開化ノ大御
 代ニ負カサルヘシト

〇去ル九日獨乙人フリーベム乗馬ニテ雜喉場ヲ通行
 シ如何ナルトニヤ落馬シタリ傍ニ遊ヒ居タル兒童之
 ヲ笑ケレハ大怒リ杖ヲ振上ケ打擲セントスルニ兒童
 ハ早クモ四方ニ逃去ケレハ遺憾トヤ思ケン夫ヨリ往
 來人ニ取掛リ種々乱妨スル折柄取締邏卒走セ來様々

宵ラル、ト雖間入ス杖ヲ以邏卒ヲ打擲セントスルニ
 ヲリ手ニ餘リ竟ニ捕縛シテ外務局ニ引渡サレタル由
 街説ニハ外國ノ狂人ナリト云話アレハ全酒狂ノ趣也
 ○近頃挑谷ニ舶來ノ綿羊ヲ飼養アリ價直一匹五十兩
 以下也牡ハ少ク牝羊五匹ニ牡羊一匹ノ割ニシテ夏冬
 ニ分挽ス一腹二匹ニ過ズ毛ヲ刈モ又夏冬ヲ以季トス
 食餌至テ些少ニシテ藁ヲ主トシ飼養豕トハ致易ニシ
 テ其利益ヲ得ルモ又豕トハ遙カニ勝レリ若シ望ムモ
 ノハ挑谷又ハ天湍橋北詰北へ入所へ行ヘシ飼養及ヒ
 摘毛ノ法迄傳習アルヘシトソ

○元羽州ノ人當時平民ニテ在阪セシ養蠶ノ大先生佐
具篤次郎ヲ登庸セラレ府内一般養蠶ノ教授ヲ命セラ
レタリ

○一体蠶卵紙ハ十枚ニ六七枚マテ蛆アルモノナルニ
攝津ノ蠶卵紙ハ元來蛆アルナケレハ此上養蠶ノ法
閑ケナハ奥羽信州ニ立並フ程ノ蠶卵紙モ製シ出スナ
ラント云フヘリ去年長柄ノ渡シ近傍ニテ養蠶ヲ閑キ
シ片中途ニ至リ素ニ錫シテ丹波ヨリ買入養ケル分ニ
ハ蛆アリシトソ只津ノ國ノ地味素ニ應スルヤ又一奇
トイフヘシ

○此頃當府ノ御布告ヲ閑スルニ辛未年市中天然痘セ
シモ五百九十人右ノ内死セシモノ百三十五人種痘
セシモノ六千九十一人其中障アルモノ一人モナント
ツ因ニ云種痘ノ事ハ追々御布令モアリ官府ヨリ種痘
所ヲ設ケラレ御施行アル程ナルニ中ニハ頑固ノ愚説
ヲ信シ又何ノ思慮モナク等閑ニ打過種痘ヲナサシメ
ス竟ニ兒ヲシテ産トモ付マ不具トナシ天然ノ壽命ヲ
害フモノ少ナカラス是等ハ第一天理ニ背キ又不慈足
ヨリ大ナルハナカルヘシ人ノ親タルモノハ宜ク心得
有タキ事ナリ

○浪華ノ西方松島ニ新廓開ケテ舊冬廢セラル、ノ遊里二十餘ヶ所ノモ、共追々爰ニ引移レリ南北其他新町堀江ナリハ歴然タリト雖數人ノ娼妓ヲ松島ニ分配セントノ結構アル由中ノ町通りハ長二百間道幅六間半中央ニ四季ノ草木ヲ植テ壯觀花美ノ一廓トナレリ

○松島ニ人形芝居ヲ新造シテ正月ヨリ興行セリ淨瑠璃ハ竹本春太夫三弦ハ豊澤團平人形ハ吉田玉造一座ニ冠タリ夫レ人形ノ五躰ヲ機關スルモノ合シテ三人而シテ屈伸運動合期シテ一手ニ出ルカ如ク其様恰モ生人ニ異ナラス或云萬事斯ノ如ク同心協カセハ何事

カ成ラサラント座元ハ遠近ニ名ヲ知ラレタル稻荷ノ文樂也

○松島ニ設ク所従前ノ施藥院ヲ今度駐劄院ト改メラレ府下ノ娼妓悉醫員檢査ノ上徽氣アルモノハ皆治療中此院内ニ寄留セシメ身體健全ノモノハ娼妓共人別ニ健全保護ノ鑑札ヲ渡スヘク檢査請ルヲ欲セサルモノハ業休差止ヘキ旨等件々御布令アリ

○右醫員總長松山氏ハ去年十月横濱ヨリ來リテ施藥院ニオイトテ府下娼妓ノ徽毒病ヲ治療スル當二月迄八百貳人内全愈ヲ得ルモノ五百二十七人ナリト云

大阪新聞第一号

一當新聞一冊定價三錢

每月二號或三號出版致

候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明、巧器及諸品、賣買弘札 ○店閤新規賣出、觀物集會等、引札

○失物尋物等、勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版

一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十

錢三度分、十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五年申年 大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

東京兩國若松町

同日本橋川瀬石町角

同日本橋一丁目

同芝三島町

西京東洞院三條上町

同二條高倉西八

大坂心齋橋筋一丁目

同北久堂寺町四丁目

同南本町四丁目

同本町四丁目

同備後町四丁目

同長堀橋筋一丁目

弘

所

日新堂

村上勘兵衛出店

北畠茂兵衛

山中兵衛

村上勘兵衛

島林專兵衛

松色九兵衛

前川源七郎

三木平七

梶田喜藏

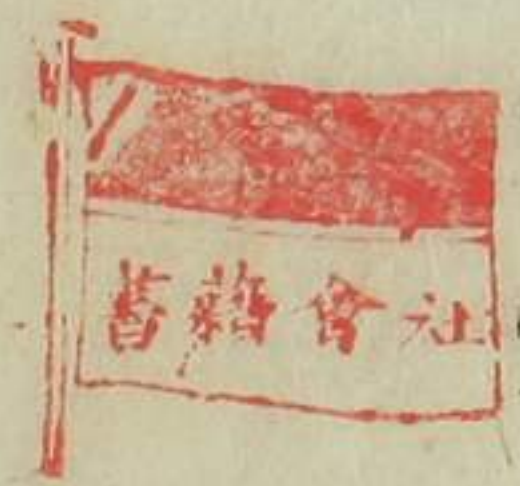
梅原龜七

定價三錢

明治壬申四月

大阪新聞

第二號

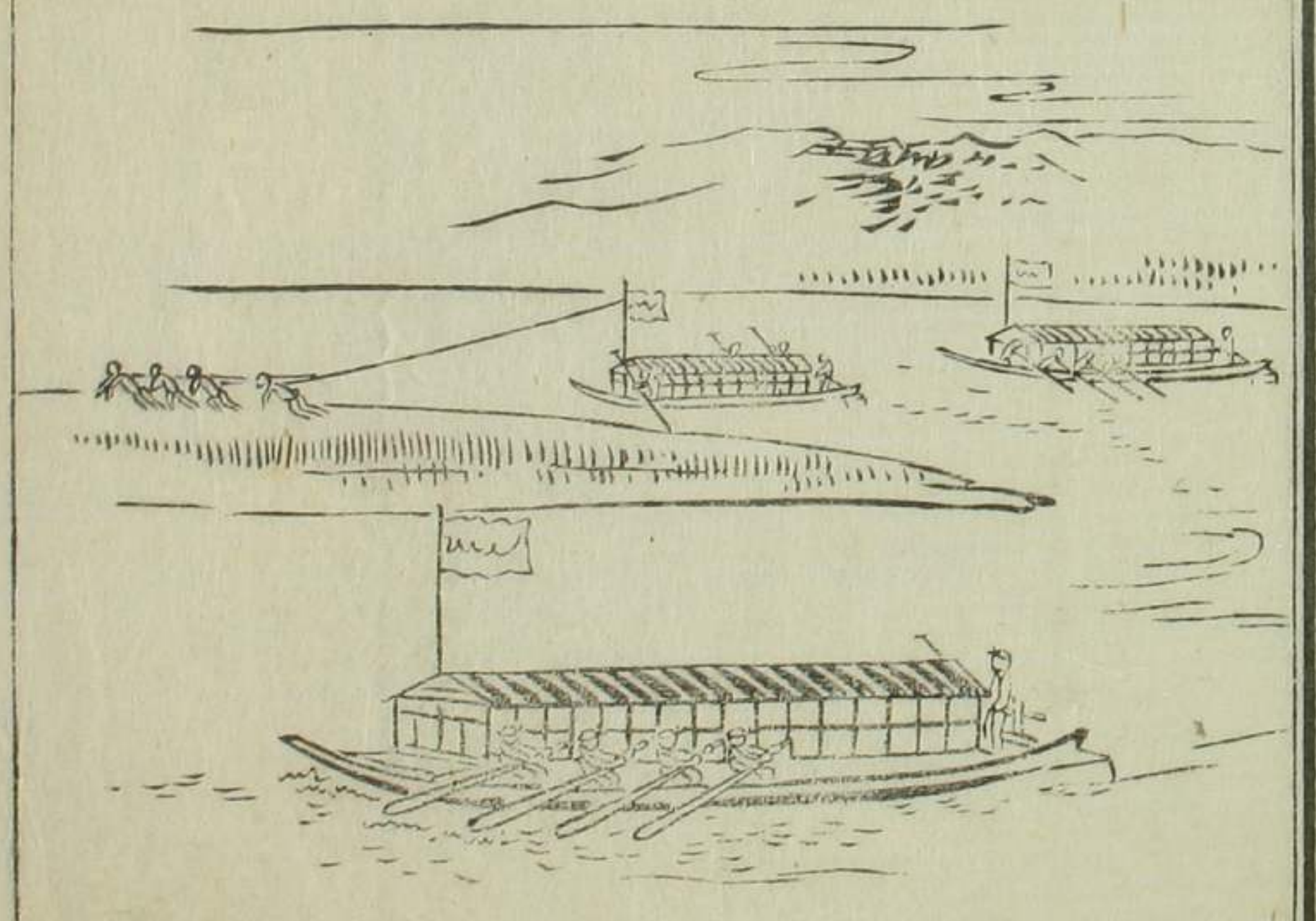


今也新聞紙ノ世ニ盛ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
 フ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
 經世ノ益ヲ聞カンテヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
 中ニトトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
 今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
 方ノ望ニ達シ日新開化ノ盛世ニ負カサルノ微
 意ニ寄ルモ、也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
 サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
 ラレテハ社中ノ幸甚之ニ過ン

緒言

淀川新船之畫

迅速あると川蒸気舟
 一瞥して過れども火勢は釜城
 とかさされハ婦女子乃僮と空
 可らば及令侍ハ三十三小羽と
 うの濕陋たるととれこれの乗合
 の眠との僮はる如く明晃の
 表より在るも晴景乃愛撫可
 寫る庭外の月をさすも身
 便室よりあがり怪れは江湖伎
 利と超く客人さよ通中ノ呼
 こんこ〜 彼君來て見と諸更



明治五年三月
 大阪新聞第二号

右ニ因シ併題スル所ハ今度淀川通行ノタメ新製セシ西洋造ガラス張家形早船ニシテ夜ハ燈ヲ點シ酒杯ヲ廻ラヌヲ嫌ハズ船中厠ヲ設ケテ婦人ニ便ナラシム其迅速ナルハ
 実試ノ報告アリ左ニ挙ク

淀川 上リ一人前 金三朱
 下リ同 二朱

高瀬 上リ一人前 二朱
 下リ同 一朱

貨一艘 淀川上リ 金九兩
 下リ 六兩
 同高瀬川上リ 二兩一分
 下リ 一兩二朱

船乗場

伏見京橋 龜甲屋善九郎

大阪高麗橋 萬屋 伊助

京四條小橋 山崎 幸吉

同高瀬五條 竹田屋 濱

同七條 千九屋 濱

淀川早船実試報告

一京師博覽會ニ付此度新造開設ノ西洋造屋形早船此頃
 夜船計上下通行致居夕七字ニ伏見出船同十二字ニ大
 阪高麗橋迄着船ス実ニ早クメ早船ノ名ヲハナス然レ
 比夜分ナレハ乗込ノ人ヨリ外ニ知ルモノナシ故ニ三月
 廿六日高麗橋ヨリ朝弟八字川蒸気船ニ七八丁程モ
 後レテ出船スト雖モ守口邊ニテ蒸気ニ追付弟三字
 伏見へ上陸スルニ淀川蒸気ハ遙カニ後レテ着岸ス
 即刻伏見ヨリ高瀬早船ニ乗移リ弟五字ニ四條小橋
 へ着船ス其迅速ナルヲ淀川通行未曾有也借本日蒸

汽ニ乗合シ西京ノ某伏見ヨリ高瀬早船ニ乗込船中
雑話ニ云今日蒸気船早船ニ乗後レジトテ此節河水モ
有十分ニ石炭ヲ焚船方一同骨折シト雖モ遙カニ後レ
ヲ取シトゾ只是我輩ヲ新造船ノ疾行ヲノミ誇ルニハ
アラズ明世利用有テ諸君ニ告ント欲スル而已

○正月中旬頃横濱ヨリ神戸廻船ニ乗衆百人計リ其荷物
幾多積入横濱出港致セシ今以着船セス併シナカラ諸海
岸ニ難波ノ凡聞モナケレハ多分無難ニメ遠カラズ着港
致スベシトノ話アレ此船ニ乗組ミ人ノ親族又ハ用
アル人ノ心痛思ヒヤルベシ

○大阪市街ヲ此度四大區七十九小區ニ區分シ從來ノ
町名ナ廢シ南北ノ街ヲ何節東西ノ街ヲ何通ト唱へ總
テ町名ハ何丁目ト改メラレ區町ノ境界毎ニ標ヲ掲ゲ
ラレタリ從來ノ町名ハ紛亂錯雜ニメ市中ノモノスラ
氣憶シ難カリシモ向後ハ遠國書翰ノ届方來訪ノ客等
ニ便ナル知ルヘキナリ

○大阪技藝者尾上多見藏星霜七十五齡若手ノ者ニ打
交リ其業ニ冠タリ相撲ナラバ横綱タルベシ旧年ハ加賀
へ出向ケ今年ハ土佐ヨリ筑前へ渡ル當春ニノ替リ道
頓堀角ノ芝居へ出勤シ鬼ノ念仏ノ狂言ニテ大當リテ取

ル鬼モ恟ル壯健ナリト人ノ噂モ七十五才鬼ノ狂言ニ見
物衆へ御礼トテ三ツ指ニテ申シタリトゾ

○阿州小松嶋西堅保太郎出店東京本八丁稱二丁目野
上屋加右卫門手代久兵卫全下人久蔵ナル者兩人當ニ
月國元本店へ贈リ金三千兩所持致シ蒸気船ニテ神戸
へ着港同十九日淡州へ渡リ陸行セシニ久蔵俄ニ変心致
シ久兵卫ノ透ヲ窺ヒ三十兩取逃ニ及ビ事件同廿六日
大阪廳へ訴エ三月四日越前敦賀ニテ召捕ラレタル
ヨシ

○新聞紙第一号ニ載セシ娼妓共黴毒検査ノ件々御布

今後遊里一同歎願モ有ケル由ニテ遊女屋渡世ノ規則左
ノ通改正相成シ由

女即 藝子 情客ヲ取ルモノ 座着女 賣色セザルモノ

此女即藝子八月々検査ヲ請ヘキモノニテ形容衣漿
従前ノ通ナリ座着女ハ凡俗ヲ改ム

髮東京凡 衣類縞或ハ小紋ノ類 衿打合ニ着
簪一本 白齒薄化粧 履モノ木地下駄

右座着女共自然内容ニテ賣色娼犯アル片ハ藝子ニ
加へ申ベク又座着女一人ハ客先へ送り込マスニ
人ヲ一組ト相定其中一人賣色娼犯コレアル節残ル

一人モ連座ニ處シ且遊女屋ニイテハ座着女ヲ來
客へ内密賣色致サセタレハ發覺ノ期其渡世相除キ
申可クトノ丁也

○當春難波新地殊ノ外賑ハシク觀セ物小屋數多軒ヲ並
ブ中ニモ足藝トテ兩臂トモ無キモノ足ヲ以テ弓ヲ射
或ハ琴ヲ彈ズ其餘種々ノ藝等ヲナシ見物群集ナセリ
ソノ形状カクノ如シ

○何國ノモノニヤ有ケン當春難波新地ニテ一ツノ屋形車
ヲ率キ夜ハ其内ニ卧ス小兒ヲ一人連レ世ノ人竹二郎
トカ異名ヲ喚ブ女アリ此者路傍ニアリテ手ニハ鼓ヲ鳴ラ

シ唱歌々且ツ見物群集ニ及べハ端門ヲ出シ見セテ何
歟懺悔スカクノ如クシテ投錢ヲ乞フ丁兩月計リ其擲錢
數十金ニ及ブ是ヲ納メ猶近國ヨリ散弄物ニ談スル者
有テ連レ歸レリト云

宜ナル哉壯夫ノ嬌情ニ放心シ數千ノ財ヲ投シテ
失産破家ノ禍ヲ致ス斯ル路傍ニタイテ遙ニチラト
其秘所ヲ見ルサへ惜マス錢ヲ投スル人情怪シムべ
シ又慎シム可シ

○英國留學ノ人ヨリ旧友へ送翰中種々新説アリ其二
三ヲ摘テ左ニ舉ク

一我横濱ヲ出シヨリ各港ヲ概觀スルニ第一人氣ノ惡敷
車言語ヲ絶シ驚入候憤憑不平我性質トハ申ナカラ
言語不通ノ墮子ナレバ致方ナク唯堪忍ノ二字ニテ
滞ナク着致候我皇國ハ開化ノ羨端ナレバ第一固有
ノ國体ハ勿論凡俗教睦ヲ失ナハザル様コレアリ度人氣
ノアシキト申モ唯金銀ノ事ナリ且凡土氣候ハ勿論
草木物産等ニ至迄我皇國ノ右ニ出ルモノ世界中コ
レナシ只餘リ萬事潤澤故情氣ニ相成ラント恐候外國
ハ始終勉勵致サズテハ飢渴ニ可及氣候モ不順故艱
生不致テハ死地ニ墮リ申ヘク依テ我皇國ニテ石室

ヲ營ニハ第一空氣流動ニ注目可致ト察候

一世界中傳信機ノ會儀伊多利亞ニテコレアルニテ此方ヨ
リハ辨務使附屬鹽田某罷越候ヨシ

一支那ヨリ米利堅へ留学三十人出シ候由是ハ支那洋
学ノ大学校中ニテ餘程相進候モノ、由是ヨリ支那
モ進学生ヲ出シ候趣承候

一龍動ノ壯麗宏大ハ難ク筆紙是ヲ瑠璃境ト云ンカ屋

上ニ蒸気車アリ地底ニ蒸気車アリ種々無類ナリ

一英國ニテハ魯西亞セバストポール一件以後軍政改革致候
趣是迄御親兵杯ニハ金満家ナド金ヲ出シ士官トナリ

反片開寫

是ヲ榮トシ候趣ニ候得共今度黥涉我候趣併英國ハ
四面皆海珠龍動ノ食物ノ輸入ヲ鎖セハ皆飢ルト云
フ依テ英國ハ國中、引受ケ戰爭ハ決シテ致サズ
謂近キニ屈シテ遠キニ延ヒルノ形勢ナリ去印度其
他餘リ世界中ニ手ヲ伸ベ矣故此上發食致候テ保護
不行届今ニテモ手ニ餘リ候位ト申事他日各處ノ領地
獨立可致ト申丁也

○支那國ヨリ身ノ丈ケ八尺ノ男當三月十六日神戸、着
岸シ居留南京人ノ方ニ止宿姿繪ヲ賣出シ一人前金百
元ツ、ニテ一見致サセルトノ丁也十八日十九日廿日ハ例

羊ノ通洋人等ノ競馬ヲ大男見物イタス節棧敷ヲ註ク圍
ヒ彼ノ大男カ後姿ヲ一人前金ニ朱ツ、ニテ見セソルヨシ
往々安直ニメ見物サスヘシトノ風聞也此人姓ハ伍名ハ
九支那徽州ノ産ニメ賤シカラザル者ノ子トル由年齢二十八九
歳先年佛國、モ渡リ国王ヨリ時計ヲ貰ヒシトモアル由爰
ニヲカシキハ伍九が同伴セシ妻ハ身ノ丈三尺位ノヨシ丈ケ
半バニ及バスシテ夫婦交接ノ障リニナラザルハ可怪トナリ

○當地御布令ノ寫シ
芝居真行差許候儀ハ徒ニ人ノ耳目ヲ喜バシムルタメナラズ
勸善懲惡ヲ旨トシ無學文盲ノ者モ是ガ為ニ感動シ不

孝ノ見モ孝道ニ趣キ心ニ惡事ヲ扱ミ候者モ自然善道ニ帰シ候様成行候テコソ本意ニ可相適所近來猥ケ間敷仕組ヲ設ケ獨無益ノミナラズ大ニ弊害ヲ生シ若年ノ男女是カ爲ニ遊蕩淫惰ニ流レ家業ヲ惰リ凡儀ヲ破リ候モノ不少哉、趣以ノ外ノ事ニ候就テハ向後濫ケ間敷仕組於有之ハ早速差留此度嚴重ノ処置可申付条此旨相心得前廣仕組ノ大意書ヲ以テ願出許可ヲ受候上與行可致事

士申三月

○粟苗ニ真粟椿粟其外種類様々アリ之ヲ植ルニ土地

ノ應スル應セサルアリ鉅ク教授ヲ得シトゾ若子モノ地ヲ持テルヒノハ授産所ノ願出レハ培養教授ノ上苗下ケ渡セラル、由代價ハ来ル戌年四月迄ニ上納スレハ宜シトナリ

○松鳴ニ元居ル所ノ娼妓数人アリ今度吸々ヨリ集ル処ノ娼妓ヲ合シテ各其品位ニ寄リ格ヲ三等ニ分テ上等花一本ノ代新貨八錢中等六錢下等ハ四錢ト規定ヒリ嗚呼女子ノ容ヲナキ男子ノ才ナキ一世ノ不幸イカンゾヤ然リト雖女色ハ詩文ノ如ク好惡必人ニ繫ルト下等亦豈捨ベケンヤ男子モ亦才アリテ窮シ愚ニメ達スルアリ

遊客耳食スルナクハ又下等ノ幸ヒナラント云

○同所人形芝居ハ第一号ニ載セシ如ク正月ヨリ開業
セシガ大當リニテ五十日近ク興行セリ畢テ又三月
四日ヨリ大江山ニ二十四孝ノ出シモノニテ見物大江山ノ
山ヲナセリ

○當地ノ町人小野善助ナル者鹿兒嶋縣士族石川何某
ヲ雇入洋学教師トメ多分ノ月俸ヲ與ヒ番頭手代共ニ
至ル迄昼夜車務ノ間隙ヲ以テ學術勉強致サセ候由実
ニ今日ノ御主意ヲ奉戴シ開化ニ注意シ國ヲ為シ身ヲ
ナカント欲スル徒ハ家風ノ仕来リニ泥ミ無用ノ下部

杯大勢駈役スル等ノ旧習ヲ速ニ一洗シテカ様アリ度
ナリ

○撰州東成郡天王寺村丹波屋安兵工伴浅吉主人河内
屋もみ方ノ飼豚病死セシヲ何レノ寺院ニナリト埋メ
タシト主家ヨリ浅吉ヲ以親安兵工頼ミ遣ス所安兵工
兼諾シ後凡ト心付豚ノ膏ハ傷処ニ用ヒテ切趾アルモノ
ナレバ此豚モ土中ニ埋メヨリハ膏ヲトリ貯ヘ置バ後日
自他ノ助モナルベシト思慮シ膏ヲ取ル所ハ大和屋龜吉
ト申ス者来リ死肉ヲ惠ミ吳タキ趣ノ談シヲ兼引シ一
足ヲ龜吉ヘ与ヘ自分モ食用シ又懇意ノ方ヘモ死豚ノ

由ヲ明シテ差遣ハセシニ又人ニ送ルモアリテ其肉ヲ食シ
六人マデ毒ニアタリ就中日本橋四丁ノ近江屋繁藏弟竹松
ト云モノハ忽チ命ヲ亡ヒタリトゾ病死ノ肉ハ鬻ガ一嚴禁
ノ旨追々御布令モアリシニ此度ノ再行悪心アルニハアラスト
雖モ不憚ナリトテ御処置アリヌル由安兵エ托セラレタル通り
早ク土中ニ埋メナバ此過チモナカルベキニ僅傷所ノ患ヲ救
ハントテ人命ニカ、ワル失錯ニ出ル注意ノ深カラザル所カ
可恐可慎右ハ心得ノ為メトテ御布告ニ相成タル由

因ニ云島暉高前年備前國通行ノセツ下津井吉田
屋鹿藏一イハル者ヨリ妙薬ヲ傳授セリ右ハ鰻魚ノ

毒ニイタリタルニ漆物用ニ致スガリヤスト云ハル
枯艸ヲ水煎シ用フレバ忽チ吐瀉ニ及ビ平愈致ス
是眼前經驗也世ノ人記憶メ鰻毒ノ病者ヲ救フ可
シ且又豚毒ニモ功効有ベキヤ函家、談スベシ

カリヤスハ何レノ繪具屋ニモアリ

一會社、一封ノ書ヲ投入セシ人アリ宛テ見ルニ第一号
ニ載セタル横濱云々ノ條中安次郎ヨリ證文トスベ
キヲ喜三郎ニ書誤リタルヲ心付ラレタリ誤字モ所ヨリ
大體ニ拘ハルモノナレバ校訂最モ入念スベキヲ幸ヒ此人

マツテ粗漏ヲ補ヘリ封中姓名ダモナケレバ爰ニ一辞
ヲ述テ其人ニ謝ス

大阪新聞弟二号

一當新聞一冊定價三錢 每月二號或ハ三號出版致

シ候哉凡号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニコツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品ノ賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札

○失物尋物等ノ論田山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十
錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五
申年
大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

東京兩國若松町

同日本橋川瀬石町角

同日本橋一丁目

同芝三島町

西京東洞院三條上町

同二條高倉西八

大坂心齋橋筋一丁目

同北久堂寺町四丁目

同南本町四丁目

同本町四丁目

同備後町四丁目

同長堀橋筋一丁目

弘

所

日新堂

村上勘兵衛出店

北畠茂兵衛

山中市兵衛

村上勘兵衛

島林專兵衛

松邑九兵衛

前川源七郎

三木平七

梶田喜七

梅原龜七

間部武助

明治壬申四月

定價三錢

大阪新聞 第三號



今也新聞紙ノ世ニ盛ニ行ハレテ村老漁翁モ耳ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基經世ノ益ヲ聞カンコトヲ樂ム然ルニ當時三府ノ中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四方ノ望ニ達シ日新聞化ノ成世ニ負カサルノ微意ニ寄ルモノ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラサルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ハ勿ク寄贈セラレナハ社中ノ幸甚之ニ過シ

緒言

大阪新聞第三號 明治五年申四月

○東京日新堂新聞誌云フ大阪ヨリノ來信ニ府下ニテ此節天火見ル近キ間ニ災變アル兆ナリ惡説流傳ト云ク是ハ全ク虚説ニテ於當地古様ノ事更ニ無之カク無根ノ流言ヲ書送ルルモノ廣大ノ府下ナレバ有ルマ數トモ申シガタケレ氏災シテ無之ナレバ衆人ノ惑ヲ解カタノ今爰ニ書載ルモノナリ

○日新究化ノ世ノ有難サハ下市郷間ニ學校開ケ智識日ヲ進ム爰ニ北堀江四丁目阿波屋福松ト云者活業

明治五年四月

藍王ノ仲士ナルガ此者方今諸方ニ学校開成ヲ聞キ早
速町ノ長ナル宅へ趣キ何トゾ我町内ニモ学校ヲ設ケ近
邊ノ兒童ニ朝夕教ルヲ得ナバ其有益多カラシ我等開社
ノ雜費トシテ十回金出財致スベシト頼リニ勸ムコ、ニ
於テ町内一統其志念ヲ感シ此頃合議シ今相應ニ出金
シ急々其町邊ニ学校建營ノ企アルヨシ嗚呼其日働ノ
躬ニテモ其出ス金ハ些少ナレト誠志人ヲシテ感動セシ
メ竟ニソノ基ヲ冠クニ至ル賞スベキナラズヤ

○天王寺聖徳太子殿再建ニ付河州八尾明意上人并ニ
市郷講中志シヲ合シ當三月地築ニ取カ、ル市中ノ老若

講組中毎ニ一列ヲナシ色々ノ懺リヲ立テ或ハ緋或ハ
白ノ衣袈組毎ニ一様ヲナシ其形容美ヲ飾リ天王寺へ
群參ナス一率キモキラズ且ツ參詣ノ人々雲霞ノ如シ或
人ノ狂奇ニ

系信の如くも昂り沸くあやとくそ那佛くとくそるりあは

○傳ニ曰明意上人ハ河州八尾寺院ニ住原馬士ヲナシテ
業トセシニ感ズル所アツテ前上人ニ帰依シ竟ニ後住ト
ナル平常持齋木食ヲナシ且ツ暑寒トモニ單衣ノミ無
欲一遍ノ僧ナル故歸仰ノ人多シト云

○當春紀州熊野那智山如意輪觀世音今宮海泉寺ニテ

出宛帳冬詣ノ人々并ニ道筋掛ケ茶屋人カ車ノ往返

シ

○當三月生王社内砂持ハジマリ其産地子ノ町々色々ノ

ツクリ物ヲナシ其賑ハイ謂ハンカタナシ

○當府下連々御改革アリテ市井ノ區分ヨリ戸藉ノ編

制大小年寄ノ人撰ナド有之去ル四月十三日ヨリ市中一般

寂寄ノ寺院ニ集メ毎朝知参事其席ニ臨ミ平生ノ心

得且ツ將來ノ方嚮ナド懇切ニ説諭アリサモ難有丁也

右参集ニハ唯一戸ノ長タル者ノ之呼出シノ処志アル

モノ共ハ真ヤ子トモ追拜聴願出ルモノアリト云可賞丁

ナリ然ルニ間々ニハ心得違イタシ説諭ノ趣意ヲ聞違

ヒ此節ハ又色々ノ御法度ガ出テ嚴重ニナリハケ間シク

ナル杯申觸スモノアリ是全ク平生安逸ヲ計ル惰情ヨ

リ起ル丁ニテ実ニ可笑可憐丁ナリト云

○今度松嶋ニテ是迄ノ施薬院ヲ驅徴院ト改稱セラレ

一ト際検査ノ法ヲ嚴ニシ病根ヲ絶ツノ趣向アリ然ル所

新町山田屋長五郎抱女久栄ト云モノ其席ニ出テ便処

ニ行クト偽リ逃出シニ段々説諭アリシヲキ入ズ其身

ハ勿論其母トモニ至テ強情ニツノリタトヘ死シテモ出

ル丁出キヌ杯申ニヨリ官ヨリ嚴重ノ御達アリ終ニ檢

查ヲ受ルトナリ母モトモ入院セシナリ然ルニ日ヲ追テ快路ニ赴キ其上介抱方其外丁寧ナルニ感ジ母子共大ニ悦ヒ頻リニ先非ヲ悔ヒ役人ニ向ヒ最前ハアナタ方ヲ鬼ノ様ニ思ヒマシタニ今ハ佛ケサマヨリ難有ゴザリマスト日々様々様ニナリシトゾ近々全快ニテ退院セルヨシ

○大阪ハ元六十ヶ処計リ遊所アリシヲ減少シテ松嶋ニ一ト纏メニナスベキノ令ニヨリ段々引越シ次才ニ繁花ノ境トナル其境内ニ驅黴院アルヲ諸街ノ遊女等名ツケテ極楽ノ園魔堂ト称スルトカヤ嚮ノ頃ヨリ検査ヲ嫌フ者共大ニ混雜シ遊女屋仲間ハ之ニ當惑シ検査猶豫

ノ願ヲ数々出セ共官ニテ聞届ケナク終ニ遊女ヲ三等ニ分チテ女郎藝者座着女トトシ女郎藝者ハ色ヲ賣ル丁故是非検査ヲ請ケ座着女ハ色ヲ賣ラザル者故検査ナシト云フサレ共坐着女竊ニ色ヲ賣ルトキハ其組中連坐ノ法ヲ以テ賣女トナスノ定メトナリシ由

評者曰世ニ毒藥ヲ嚙ル者アレハ必ス之ヲ罰ス然ルニ微毒ノ毒ハ独リ其身ニ留ラズ其子孫モ生レナガラニシテ其害ヲ蒙ムルモノナレハ官ノ之ヲ制スル固リナリ然レ共其罪果シテ之ヲ賣ルモノニ有欲將タ買フモノニ有欲暫ク識者ノ定メヲ待ツ

明治五年 大阪新聞 第三号

○山城國紀伊郡東九條村浄土宗長福寺住僧誠阿トテ
長髮長鬚ナル異形ノ僧當春西成郡南濱村明樂寺ニ寄
宿イタシ念仏行者ト唱へ此頃阿彌陀ヶ池ニテ念仏修
行ヲ始メタリシカ如何ナル絶世ノ功德ヤアリケン市在ノ
老若男女打集リ鐘ヲ叩キ念仏ヲ唱へ參詣ノ者日々山
ヲナシ十萬億度ノ遠キ極樂モ足ヲ勞セズシテ今斯ニ參
リ得タルノ思ヲナシ念佛ノ声近隣ニ響ク街説是ヲ称シ
テ水食上人活キ佛ト云講中ト唱フル男女數十人昼夜
相從フテ寢食ノ世話ナドナスアリサ子ノ親ニ仕フルヨリ
猶怒ロニシテ便所ニ行クモ獨行ヲ許サズ争フテ護送

スト云然ルニ去ル十八日右僧誠阿是ニ講中ノ者共府廳
一御呼立ニ相成リ第一許可ヲ得スシテ猥リニ人ヲ集メ
修行スル事又僧侶ニ似合ザル形体如何ノ事又怪異ノ
修行宗旨ノ本意ニ背キ衆人ヲ惑ハス始末百端御詰問
アリシニ唯一言ノ申開キナク閉口シテ終ニ恐入ノ書
ヲ捧ゲシトゾ即刻京都府ノ御引渡シニ相成ル段仰渡サ
レケレバ附添ノ講中ハ府廳白洲上ノ車ナレバ地獄ニテ佛
ニ逢シ譬ニ反シ見離サレタル思ヒナリシニ種々其非ナル
所行ヲ御懇諭アリケレバ孰レモ極樂暗路ノ夢醒テ文明
世界ニ生ヲ憂ヘシ人トナリヌト云

○當地御布告ノ寫

方今天下遊惰ノ風ヲ去リ人々已レノカノニ食ムノ通儀
タルヲ知ルノ今日亦恐上 皇后ヲ奉始安逸ノ天道ニ非
ルヲ以御手ツカラ養蚕被遣殊ニ我國女教ノ未ダ開ケザル
ヲ以幼少ノ女子ヲ撰ミ萬里ノ海外ニ被遣候折柄當府
下ニ於テハ婦女子ノ風習殊ニ惡敷紡織ノ道ヲ捨絲竹
ノ業ヲ事トシ安逸ニ年月ヲ送り候モノ、有之深ク痛
心ノ折柄左ノモノ共今度於授産所紡織相學ビ度旨願出
殊勝ノ至ニ候右ハ全ク當時 朝廷ノ御趣意ヲ奉シ
候次第ニ付小前未々ニ至ル迄能々一身ヲ顧ミ善ヲ聞

テハ速ニ移ルノ心懸ケ有之様為勸奨令揭示モノ也

壬申四月

- 長田作兵五妹 希々 拾五才
- 長田作之助姉 洋太 拾六才
- 加嶋屋林助娘 加々 拾八才
- 桑谷屋眞郎養母 多々 三拾四才
- 長田作兵五下女 々々 四拾二才
- 鴻池屋秀太郎従才 々々 拾六才
- 全 若三郎母 々々 四拾七才
- 全 伊三郎姉 ゆ々 拾九才
- 山中善右門娘 あ以 土五
- 同 下女 や々 四拾八才

右令揭示候節左ノ二名書落シ候ニ付更ニ令揭示

明治五年 申年 州防新墾第三編

○神ア、行旅スル當地ノ人隣家扇子屋ノ職人何某ニ
倉卒託シテ曰何某カ小兒種痘セリ僕今日行李故ニ贈リ
モノ意ニ任セズ因テ足下ニ委任ス足下ト僕ト二人ノ中
ニシテ先ツ價金百足位ノ見込ナルタケ張込デ音物周旋
致シ呉レラレヨト職人某諾シテ朱キ扇子ヲ立派ニ仕立
持參セリトゾ誠ニ無学文盲ノモノ、イラサル警家威シノ漢
語ヲ遣フ故カク取違セリ自他トモニ警戒スベキナリ
ト云

○来酉年澳國維納府ニ於テ博覽會有之御國ニ於テモ
此會ニ被遊カ列當二月市中、御布令有之物品差出候

者ハ官費ヲモ被立下候程ノ御趣意ニ付愛答狐疑ヲ抱
カズ見手本差出ス可キ也且ツ我邦ニテ下品ノ物ト
イヘ氏亦彼國ニテ目新ラシク採用フル事アレハ強子
上品物ノミニ際ラズ既ニ幼童ノ手習用ニ致ス竹ノ墨
挾之外國人ノ眼ニトマリ數金ノ注文致セシトゾ推テ考
フベシ

○新町南通五丁目大津屋佐助下人龜吉ト云ル者佳吉
社ニ參詣致度旨ニテ當三月十七日難波新地ヨリ人カ
車ヲ雇ヒシニ同町三番丁酒屋藤兵五雇人秀吉ト云者
則車率キ參ル途中ニテ実ハ伊勢參宮致シ度キ存志故

則江五申年 州新開第...

是ヨリ直グニ道中附添具マジクヤト申ニッ秀吉モ兼テ
参宮志願モ有之幸ヒノ事ト心得車ハ持主ノ相届ケ其
俸附添行キシニ龜吉大金所持ノ体不審ニ思ヒ同サ日
吉野所止宿ノ節龜吉住処委シク相尋考合イタス所全
ク主家ノ金子持逃ケニ相違ナシト察シ内々飛脚雇入大
阪龜吉主人佐助方ノ知ラセ伊勢地ノ早々追手差向ケ
候様ノ手ハズ致セシニ案ノ如ク不埒ノ次才ニテ佐助方
ヨリ追手ノ者先キノ廻リ勢州宮ノ前ニテ出合連帰レ
ル由右ノ始末雇人秀吉彼是心配行届候段奇特ニ被思
召御上ヨリ賞トシテ貨二百銭下サレ且ツ右事件新高札

場ノ相揭示ナル

○方今何國トモ家号廢セラレ苗字トナル茲ニ一笑話
アリ或近国ニ一在街アリ是迄ノ家号被廢姓ヲ名乗ル
可シト里長ヨリ申達セシニ相應ノ身分ノ者ハ原来ヨリ
姓名有之ト雖モ小前末々ノ者ハ姓モ無ク又新タニ姓
ヲツケンニ文字知ラズ皆々里長ノ参リ可然苗字御ツケ
降サレト申参ル里長モ始メハ韻鏡ナドヲ以テ名附シニ
追々多人数トナリ殆ンド困ジハテ後々ハ其者ノ業体
ヲ尋子夫ニ應シテ性ヲ名ツク一二ヲ舉ルニ一人業体
荷ヲカツギ歩行ヲ業トナス依テ勝木ト附ル一人ハ又

月名五壬 大坂行門...

木挽ナリト云依テ大割ト名ツク一人雪踏ヲ賣ル依テ浦川ト名ツケントゾ

○横濱新聞ニ同処常盤町二丁目水汲渡世菊次郎妻ト云夫婦ノ間ニ子ナキヨリ飼猫ヲ養ヒ寵愛スル丁我子ノ如クセリ然ルニ妻懐妊シ去三月上旬ノ頃一子ヲ儲ケシヨリ猫ノ寵愛モ日ニ疎クナリシ故畜生ナカラモ妬心ヲ抱キシヤ赤子ノ寝顔ヲ幾度トナク白眼ツケシガ程ナク赤子死セリ又猫モ其日ヨリ行衛ヲ知ラズトゾ畜類ニ愛ヲ過シテ災ヲ醸セリ慎可シム

大坂新聞第三号

當新聞一冊定價三錢 毎月二冊或ハ三冊出版致

シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二

割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及諸品賣買弘札 ○店閤新規賣出シ觀ヒ物集會等引札

○失物尋物等ハ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版

一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十

錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局 敬白

明治五年申年 大阪新聞

發行所 書籍會社

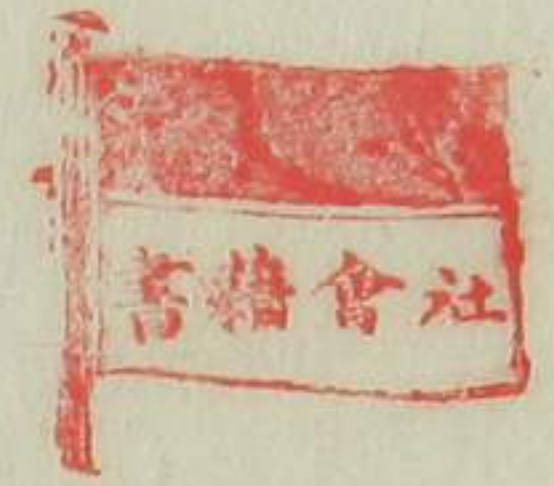
大阪本町四丁目

東京兩國若松町	日新堂
同日本橋川瀬石町角	村上勘兵衛出店
同日本橋一丁目	北畠茂兵衛
同芝三島町	山中市兵衛
西京東洞院三條上町	村上勘兵衛
同二条高倉西八	島林專助
大坂心齋橋筋二丁目	松邑九兵衛
同北久宝寺町四丁目	前川源七郎
同南本町四丁目	三木平兵衛
同本町四丁目	梶田喜藏
同備後町四丁目	梅原龜七
同長堀橋筋二丁目	間部武助

明治壬申五月

定價三錢

大阪新聞 第四號



今也新聞紙ノ世ニ成ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
 ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
 經世ノ益ヲ聞カントヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
 中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉ヲラサルヲ歎キ
 今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
 方ノ望ニ達シ日新聞化ノ成世ニ負カサルノ微
 意ニ寄ルモ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
 サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
 ラレハ社中ノ幸甚之ニ過シ

緒言

大阪新聞第四号 明治五年申四月

廿五日曉第二字頃東京本石町二丁目大通左り側ヨリ
 出火十軒店本町二丁目不殘室町三丁目迄燒失致シ第
 五字頃鎮火ス

○四月廿四日大中少ノ年寄ヲ府廳ニ呼出シニナリ心
 得ノ書付讀聞セノ上左ノニケ茶申渡サレタリトソ大
 阪モツノ通ニ御趣意ヲ奉シタラハ速カラス昔ノ繁榮
 ニ復シ開化ノ域ニ進ムナラント心アルモノハ希望ス

明治五年 大阪新聞第四号

ルナリ

海陸四達天成ノ美ヲ占ルモノ之ヲ天下ニ求ムルニ
 恐クハ大阪ノ右ニ出ルモノナシ然ルニ今日日新ノ
 景況東京ニ比スレハ三五年ノ前ニ居ルモノハ全ク
 其天成ヲ頼ンテ人事ヲ盡サバニ由ル抑舊幕ノ盛
 ナル天下諸候ノ多キ半ハ此地ニ出テ公務ノ費ヲ仰
 キ其銀主タルモノ自ラ尊大ノ風習ニ慣レ居ナカラ
 貸付金ノ利足ト扶持米ノ給與ニ安シ只管彼ヨリ来
 ルヲ待テ遂ニ我ヨリ進テ取ルノ意ナシ東京ハ之ニ
 反シ来ルヲ迎テ其好ム處ヲ察シ手段百出自ラ賤シ

クシテ進テ取ノ意アリ故ニ駭ク開化ノ誠ニ赴ク今
 日ノ速ナルアリ是レ素ヨリ萬化ノ原ニ在ルニ由ル
 ト雖モ人ニ進取ノカモ亦尠カラス今ヤ大阪從前頼
 ム處ノ諸候ハ既ニ廢セラレ天成ノ海口ハ土砂ノ為
 ニ塞リ世上海運ノ便ハ日ヲ追テ開ケ是迄容易ニ人
 ノ經過ス可ラサル紀難遠洋モ平地ノ如ク歐米ノ遠
 キモ比憐トナルノ今日ニ至リ猶舊習ヲ固守スルハ
 羊ヲ逸シテ猶宰ヲ守リ秋收了リテ案山子獨り立モ
 ノ、如シ苟モ此理ヲ明ニシ早ク前途ノ目的ヲ定メ
 進取スルノ意ヲ決セハ東京ニ凌駕スル期年ヲ待タ

サレ必セリサレハ今日ノ急ナル第一人心ヲ振作シ
大ニ海港ノ便利ヲ興スニアリ今管下ノ人民凡五十
餘萬トス其心ヲ一ニシカヲ海港ニ盡シ早晚越前敦
賀ノ鐵車此地ニ達スルヲ待チ物品ヲ市上ニ山積シ
巨艦ヲ海口ニ雲集シ果シテ山海運輸ノ權ヲ坐シカ
ラニシテ掌握セハ今日ノ腐習ハ勞セスシテ閑仕ノ
域トナル試ニ十年前ノ神戸横濱ヲ顧ヨ一小村落ノ
農民漁夫僅ニ生産ヲ營ムノ地ノミ而シテ今日ノ勢
ヲ致スモノハ他ナシ内外運輸ノ權ヲ有スルニ在リ
サレハ今日時勢ノ變遷ヲ察シ衆心奮發衆力ヲ合シ

金アルモノハ金ヲ出シカアルモノハカラ出シ
ヲ奪フノ大業ヲ興シ祖先代ニ住ニ慣レシ主ノ江ニ
子ニ孫ニ榮華幸福ヲ受ケ永ク閑化ノ民タラハ豈快
カラスヤ又樂カラシヤ

大年寄
中年寄
少年寄

國家ノ富強ハ又材アルニ由ル人ノ材器ヲ發達
識ヲ開クハ皆文教ニヨリサルハナシ今ヤ
朝廷文部教部ノ二省ヲ被爲建候モ唯ニ天下ノ知識

ヲ開キ廣ク教化ヲ布カセラレタキ
思召ナレハ率七ノ濱ト雖モ其意ヲ體セサルヘカラ
ス況ヤ當地ノ如キハ古未ヨリ日本三都ト稱シ今三
府ノ一ニアリナカラ學校ノ設ケ手薄ナルヨリ人
時勢ト道理トニ暗ク家業ヲ營ムモ眼前ノ利ノミニ
走リ動モスレハ失産破家ノ禍ヲ致サントス今東西
兩府ノ學校ヲ設ル其數一百ニ近カラントス故ニ教
化ノ道日ヲ追テ盛ニ知識ノ開クル月ヲ追テ進ム唯
我一府此企ノク此僂ニシテ日月ヲ送ラハ三都ノ稱
ハ名ノニシテ終ニ蠻野ノ笑ヲ来サントス抑是迄

學文ノ弊タル花月ヲ耽ヒ詩歌ニ長シ候迄ノ事ナレ
ハ父母モ其子弟ノ書ヲ讀ムヲ嫌フモ理ハリナリ今
ノ學ハ是ニ異リ第一知識ヲ開キ行ヲ正シクシエハ
有用ノ良器ヲ發明シ商ハ彼我有無ヲ通シ時機ヲ察
シテ宜ヲ制シ利權ヲ他方ニ奪レサル爲ナレハ豈ニ
同日ニシテ語ルヘケンヤサレハ一同カヲ合セ大ニ
學校ヲ開キ今度改革ノ地區ニ從ヒ一區一校ヲ設ケ
區中ノ子弟ヲ集メ之ヲ教育セハ知識次第ニ開ケ土
地ノ繁榮ヲ致ス事必セリ凡人幼少ニシテ物欲ノ心
情未ダ萌サル内教ヲ加レハ戲レ遊ビ事ナス隙ニ自

明治二十五年 四月 大阪新報 第四号

カラ道理ヲ辨^{ワカ}へ義理ヲ知リ終身ノ福ヲ自然ニ備^ビ具^グスルモノナレハ學校ヲ興^ヲスハ他人ノ爲^タナラス近キハ一身一家ヲ保全^ホシ土地ヲ繁榮^シニシ遠キハ天下富強ノ一端ヲ補助^ホシ加之今日日用上ニテハ區中ノ會議所トナリ又或時ハ知參事以下出張シテ朝廷ノ御布告ヲ始メ當府ヨリ申達スル次第等說^セ論^ンノ場トナリ旁便利ヲ生シ候事故現今學ブヘキ子ナキトテ餘所ノ事ニ見做^ステ得^ルザルノ理アリ汝等此度衆望^シニ舉^ルレ町役ノ任ニ膺^ルル上ハ速ニ前途ニ着^キ眼^シシ愚昧ノ小民ヲ誘掖^イ懇諭^ンシ建校ノ企^ク今日ノ急務

タルヲ知ル一際盡力可致モハ也
○茲^コニ可^ク喚^キ話^シアリ本月廿四日ニ支那人平野町ヲ通行セシニ價金一朱計^ガト思^ハシキ土偶^ニヲ求^メ價^ヲ與^ヘズ立去^リトス故ニ價^バ可^ク償^フヨシ應^ニ接^シケレモ更ニ取^ル合^スス歸^ルトシケル所へ折^リ節^シ巡^ラ邏^ス卒^マ廻^リ逢^フシ仔細^ニ僉^シ議^スシ日本ニテハ價^ヲ不^レ出^ス物^ヲ求^ルトナシト反^ハ覆^シ言^フ論^サレタレハ金子持^チ參^ル不^レ致^スト返^シ答^フシ且^ニ謝^シ罪^ニ不^レ及^ス傍^ニ若^ク無^ク人^ノ振^ル舞^フニヨリ邏^ス卒^モ手^ニ餘^リ携^ヘシ彼半^ニ捧^ニテ頭^ヲ打^ツ撲^セシガ支那人モ之ニ怯^ク怖^シ周^ニ章^ノ体^ニテ金^ニ朱^出シ置^キ逃亡^ス實^ニ淺^キ猿^行ヒヲ為^シテ遠^ク國^ニ恥^ヲ被^リタリト傍

觀者言アヘリ僅ノ支ニテ南京破タリト笑ワヌ人ゾナ
カリケリ

〇

此度當御府ヨリ外国へポンプ數十挺御注文相成當節
渡来ナリ即チ御試アリシニ水ヲ數十歩外へ吹出シ其
勢ヒ大雨ノ如シ失火ノ節此機械ヲ以テ防禦アラバイ
カナル猛火モ消却疑ヒナシ府中人戸稠密不幸ニシテ
風ハゲシキ時ニ失火アラハ数千ノ屋宇蕩然一燼徒ラ
ニ屋宅ヲ失フノミナラス幾許ノ財本ヲ失フベキニ此
度カ、ル利器ヲ御買入ニ相成下民ノ守護ニ備ヘラレ

候ハ實ニ難有事ナラズヤ御慈愛ノ心推シテ知ルベキ

ナリ

〇第二号ニ載スル所ノ伍九既ニ難波新地ニテ觀物ト
為シ新貨一錢六厘ノ見料ニテ此比盛ニ觀セシ處廿六
日午後ニ彼ノ伍九ニ彷彿タル異人見物ニ行ケルガ如
何ナル事カ支那人ヲ日本ニテ觀物ニ為テ後日ノ嘲モ
ハカリガタシトヤ耻辱ニ想フ様子ニテ伍九ト互ニ議
論喧譁ニ及ヒシ故大勢相集リ大騒動ニ成シト此喧嘩
ノ様子ニテハ其異人伍九ガ為ニハ太々懇切ナル者ナ
ラントノ噂ナリ何分大聲ヲ發シ彼國語ヲ以テ言合シ

其故日本入ニハ一切前後相辨ヘズト云

因ニ云此程神戸ニテ觀セシガ餘リ見料貴キニヨリ
見者少ク遂ニ癡^{ヌカ}レリ後日支那人神戸見物ニ出ルニ
隨テ町中ノ者悉ク見タリ故ニ嚮^{サキ}ニ見シモノハ只^{ヒタスラ}管
貴キ見料ヲ費^{ツキ}セシト大ニ笑ヲ受タリトカヤ
又云伍丸ノ妹ハ身ノ長六尺アリト珍敷^{チヌキ}血脉ナリ兄
弟ノ体俱ニ大ナレハ噓^{ウソ}何^{ナニ}体モ大ヒナラシ人ニ見
事ヲ希望^{キバウ}スルトノ風説セリ

船越町二丁目

内藤長兵衛悻

兄 長五郎
弟 友次郎

右兩人兼々^{キカイ}機械ノ窮理ニ志厚ク此度水力蒸氣ヲカラ
ズ機械ヲ運轉^{ウンテン}シ糸ヲ引木綿ヲ織^{オリ}事一日ニ五六反ニ至
ルト云然ルニ此兄弟未ダ弱年ニテカ、ル事ヲ案^{アソ}ジ出
候ハ可^カ賞事ナリトテ父長兵衛ヲ始、兩人ノ子供府廳ニ
召出サレカ、ル子供ヲ生ミシハ天ノ與^{ヨリ}ル仕合セナレ
ハツノ仕合セヲ成就サセルハ人ノ勉^{ツト}メニヨルモノユ
ヘ早ク工部省へ出修行政サセヨトノ事ノヨシナリ今
其旨ヲ奉シ西洋人ニ付テ相學ハ、猶^{アマタ}幾多ノ發明ヲ得

ベキナレハ連々奮發良師ヲ撰ミ度事ナリ

○當地御布令ノ寫シ

醫藥ハ人生ノ存亡ニ係候儀ナレハ重大ノ次第ハ勿論
 ニ候所府下一般ノ醫家兎角藥品ノ精廉ヲ不撰一身ヲ
 尊大ニシ藥禮ヲ貪ノ風習有之仁術ノ旨趣ニ背キ無謂
 事ニ候然蒙先般緒方惟通以下二名ヨリ藥舖ヲ問キ藥
 品ヲ撰ミ資料ヲ公平ニシ診察料ヲ定ムルノ方法ヲ設
 施行イタシ度段願出候ニ付聞届候所此度別紙ノ通貧
 窮ノ者ハ診察ハ勿論藥品共施療治致シ度段願出殊
 勝ノ至ニ付是亦聞届候就テハ極貧窮ノ者ニテ病難ニ

罹リ療養致シ度候ラモ其資用償ノ術ナク不得止シテ
 治療不行届者アラハ伍人組頭並其所役人ハ申出ベク
 候尚伍人組頭郡ハ庄屋町ハ少年寄ニテ情實逐一聞糺
 貧窮相違於無之ハ庄屋少年寄證書ヲ添東大組弟十三
 區今橋通四丁目藥局へ可差出候右ハ全ク前件ノ如キ
 貧窮ノ者ハ施候次第ニ付懇旨ニ甘ハ左程貧窮ニモ無
 之モノ猥リニ差出候様ニテハ不相濟候茶庄屋少年寄
 伍人組頭等ニテ不都合無之様注意可致事
 右之趣管内無洩相違ルモ也

七申四月

大阪府

明治五年

今般西洋菓局開發 御免許被仰附難有仕合奉存候就
テハ 御國恩萬分ハ一ニテモ奉報度候間鰥寡孤獨
ノ如キ貧民ノ患者ハ診察ハ勿論藥劑モ施行仕度志願
ニ御座候間石等ノ者ハ少年寄伍長ノ添書持忝仕候様
御諭告中ニ御加被成下候ハ、難有奉存候此段奉同上
候以上

壬申三月

東大組今搦四目

精々舎中謹請

緒方惟通

印

大阪府 御廳

大阪新聞第四号

一當新聞一冊定價三錢 毎月二冊成ハ三冊出版致
シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニコツテ出版スル事件

- 新發明ノ巧器及上諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ニ物集會等引札
 - 失物尋物等ハ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
- 右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十
錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五十年 大阪新聞

發行所 大阪本町四丁目 書籍會社

東京兩國若松町	日新堂
同日本橋川瀬五町角	村上勘兵衛出店
同日本橋二丁目	北畠茂兵衛
同芝三島町	山中市兵衛
西京東洞院三條上町	村上勘兵衛
同二条高倉西八	島林專兵衛
大坂心齋橋筋二丁目	松邑九兵衛
同北久堂寺町四丁目	前川源七郎
同南本町四丁目	三木平七
同本町四丁目	梶田喜七
同備後町四丁目	梅原龜七
同長堀橋筋二丁目	間部武助

明治壬申五月

定價三錢

大阪新聞 第五號



今也新聞紙ノ世ニ成ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カンテヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新開化ノ成世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモノ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレハ社中ノ幸甚之ニ過ン

緒言

大阪新聞第五号 明治五士申五月

○當地御布令ノ寫シ

脱籍無産ノ徒ハ其舊籍ニ復サシメ適宜ノ産業ニ基カ
セ候様追ニ被 仰出モ有之右ハ全ク厚キ 御仁恤ノ
御主意ニ付從來非人乞食ト唱候モノモ數百里ノ路程
多分ノ官費ヲ以テ復籍イタサセ夫ニ授産ノ法ヲ設テ各
生活ノ道相立候様世話イタシ候ニ付テハ謹テ職業勉
勵以來御厄ゴヤク不相懸様可心掛筈ノ所却テ其苦ヲ厭ヒ
再三本籍ヲ脱シテ流民トナリ人ノ貨財ヲ盗ミ或ハ人

明治五士 大阪新聞第五号

ノ門口ニ立テ食ヲ乞フ事ヲ快ヨシトス豈ニ可惡ノ至
ニアラズヤ其罪素ヨリ其モノ共ノ責ニアリトイヘ
其弊害食物等與ル者アルニヨル凡人情乞食ニ物ヲ施
スヲ仁心ト心得タルモノ有之是其一ヲ知リテ其二ヲ
知ラザルナリ今身不幸薄命ニシテ盲目トナリアシナ
ハトナリ不得止シテ乞食ヲナス癡疾ノ者八十ガ一ニ
不過多クハ無賴放蕩ニシテ我職分ヲ勉ムル事ヲ不好
或ハ父兄ノ教育ニ背キ終ニ籍ヲ脱シテ乞食トナリ其
上数多ノ小兒ヲ生シ其兒ハ生ナカラ食ヲ乞フヲ以常
トス實ニ人間ノ耻ヲ知ラザル甚敷モノニテ淺間敷事

トラバヤ試ニ見ヨ於當府盜賊召捕吟味ノ上ニテ八十
ニ八九ハ悉ク強健ノ乞食ニアリサレハ乞食ヲ救フハ
盜人ヲ養ヒ置クモ同理ニテ其弊害衆庶ノ難儀ト相成
候ニ付他籍ノモノハ送り出シ當管下ノモノ不幸癡疾
ニシテ其家ノ養ヲ受ベキ便リナキ者ハ其町其村ニテ
相養ヒ一切乞食ニ食物等ヲ與ルヲ禁ズ依テ向後嚴重
取締ノタメ掛ノ者巡回取調夫ニ生所ニ引渡候ニ付テ
ハ左ノ条ニ可相心得事
右之趣管内無洩相違スルモノ也

壬申四月

大坂府

一 自今町村ニ於テ嚴重申合セ置乞食徘徊イタシ候ヲ
見受候ハ速ニ可追拂若緩カセシテ其町村徘徊
罷在候歟又ハ食物等與ルモノ於有之ハ見當リ次
弟其町村へ可引渡候間戸籍へ編入住宅其外養育方
世話イタシ候歟又ハ其町村ノ費用ヲ以生所へ差送
リ可申候然ル上ハ先方所役人ノ請取證書ヨトリ其
段可届出事

但引渡ハ上等閑ニシテ若脱走イタナセ候ニ於テ
ハ其町村ハ尋方可申付候事

一 隣管轄境ノ宿村ニ於テ若乞食人入込候時ハ早速元

道ハ追返シ決テ管轄内へ不立入様取締可致事
一 無籍ノ者ヲ納屋下濱先并ニ村内野末端ニ等ニ差置
間敷若等閑ニイタシ置モノ於有之ハ其町村へ可引
渡候間第一條ノ通可取計事

但其町村爲便利戸籍ニ差加ヘ有之分ハ住宅等世
話イタシ遣シ乞食ニ不紛様可致事

一 橋上橋下ニ起卧イタシ候乞食有之候ハ橋掛町ニ
ニ於テ心ヲ附速ニ可追拂事

一 先般非人ノ唱被癡候上ハ辻藝門芝居等賤敷遣業
以渡世致ベカラザル筈ニ付以未町村ニ於テ嚴重停

止可致事

一社寺ノ境内ニ乞食起卧イタシ候ハ、嚴重取締悉ク
追拂フベシ若等閑ニイタシ置ニ於テハ其社寺、可
引渡候条第一条ノ通可取計事

右條ニ堅ク相心得奉公人雇人等未ニ至ル迄其戸主
ヨリ嚴重可申聞置候事

士申四月

斯ク開化ノ日ニ當リ人々其力ニ食ムハ勿論ナルニ
遊惰自棄ノアマリ終ニ身ヲ乞食ニ沈ノルモノ多シ
可慮事ナラズヤ此度乞食逐拂ノ御布令アリシハ遊

隋一掃ノ御趣意ト見ハタリ然ルニ難有コトハ當府
下生レニテ不具ニシテ無告ノ者ハ知参事ヲ始メ諸
官負ヨリ救助出金アリ聚樂町ニ教育所ノ設ケラレ
廢疾ノ者ハ却テ便ヲ得タリト云此御仁政ニ倣ヒ乞
食ニ食物ヲ施タキモノハ右場所ニ差出シ度モノ也
○當四月廿日府下新町通四丁目銀舗小田平兵衛方ハ
支那人一名相越新金貨ヲ紙幣ニ取換シ事ヲ乞フ然レ
主人留守ニ付家内去づヨリ相断候處明ヨ可相成
約シ退出翼廿一日前約ノ如ク相越候ヘトモ前日同様
ニ付家内ヨリ一應相断シハ紙幣極急迫入用ニ

明治五年

大陽新聞第五号

〇三

金貨五百圓包封、マ、預テ置、ミ、間紙幣二百兩取
替へ渡シ置キ、レ候様ト強テ希望ニツキ止コトヲ不
得有合セ、紙幣種類取合セ好ミ、通リ二百兩内渡シ取
計遠退散後間ナク平兵衛掃宅情實ヲ聞キ金貨包封
候度量目不足ニ付一統驚愕金貨持忝早速第三區市山
取締所へ訴出ニ付顛末論吟味、上相改候處上ハ包紙
ハ正敷印刷ニテ封中ハ金ニハアラゲ銘、圓金形、贋
物ニ付即時捕縛方手當相成同時外務課、報告有之一
付忽チ傳信機ヲ以テ神戸其外所へ通信諸船發出差
止等精懇索搜有之候處神戸在留同國朋友、方ニ潛居

罷在財生ノ所為ニ一決シ終ニ捕縛拷問杖笞ニ被及斬
々惡計及白狀候ニ付當府外務局ニテ入牢積惡等ノ餘
罪吟味中ノ由必不日御國律ヲ以テ嚴科ニ可被行トノ
夙説路上ニ紛々タリ呼悲哉彼國上古ノ法律ニハ道路
ノ落物ヲ拾フ事ヲサヘ禁シ見カヘル者モ耻辱トシ
文明國ナルニ何ゾ己ガ舊國ノ美譽ヲ主張スルノ心附
キナク斯ル惡計ヲ逞シ人道ニ背キ異邦ニ譏ヲ遺ス事
社實ニ哀憐ニシテ傷シキ哉乍去右等ノ奸曲迅速發覺
就縛ニ及ヒシハ天網難遁畢竟公廳ノ御政事向嚴重ニ
シテ萬事御拔ケ目無ク文明開化ノ德澤ヲ蒙リ我ニテ

日ノ自由ヲ得テカ、ル奸盜ヲサヘ即時ニ捕縛安堵
御裁判ヲ受ルコト又々難有事ナラズヤ下併商家ノ主
タルモノハ常ニ職業筋ニ勉強碎心都テニ注意シ哀族
共ハモ能々教ルシ置前条疎漏ノ所置ヨリ起ル失却厄
害ヲ費キ公廳ノ御煩勞ヲモ減省スル様アリ度事ナ
ズヤ

下恐以書付奉願上候

今日日新ノ時ニ當リ上ハ御國益ノ一端ニ奉供下一家
利益ヲ計ル為メ事業創立イタシ度存候得共元來措

昧ノ私何分目的不相立日夜苦心罷在候處今般

御告示ノ趣奉謹承初ノテ幾明畧前途ノ目的相分ノ實

ニ當地ノ盛衰一家ノ浮沈此御事業ノ成否ニ由リ候条

聊微力ヲ以テ御趣意ニ奉酬度奉存候間何卒御用裁被

仰付被下候様奉願上候尤右御取懸リニ付テハ

御示ノ如ク衆カヲ全セズシテハ容易ニ成功難相成ニ

事業ニ付深キ御趣向モ被爲在丈ニ御規則モ御定可相

成ト奉存候間宜敷御差圖被下候ハ、聊當時拵萬金ヲ

積置衆力ノ一ニ充テ且是迄舊譜藩、御用相立置候金

子大蔵省ヨリ御下ケ金相成候節ハ猶此上相應ノ御用

華仕度奉存候間此段御開届被成下候ハ、真加至極難
有奉存候已上

明治五十年四月

東大組第十二區今橋二丁目

鴻池善右衛門印

大阪府 御廳

御附紙

神妙ノ至聞届候追テ丈々可及差圖候事

右鴻池善右衛門今度御告示ノ旨ヲ早速相奉シ大金積
置間港御用相辨度願出ルハ成程日本蓄財家ノ巨魁ト

丈打兎迄モ承知セン事尤ノ次第ナリ然ルニ今度ノ御
示シ一因脩ノ夢一覺ンテ忽チ開化ノ魁ノ占ムルハ所
謂大鵬飛トキハ一舉シテ萬里ト云ベン府廳ニモ定ノ
テ御褒賞ノ事ナラン此美舉ヲ見聞シテ他ノ金満家ハ
勿論大坂ノ人民トシテ一日セ手ヲ袖ニスル事ヲ得ン
マ願書面ヲ熟覽スレハ府下ノ盛衰ハ全ク自家ノ盛衰
トイフ頗ル廣大ノ氣象ヲ露ハセリ
○中ノ萬五丁目木屋調兵衛ノ包金ヲ似セシモノ有リ
探搜ノマ、當府ノ官員出張アリニレヲ捕縛シテ歸
、、、右ハ豊前中津部長濱村岩松久次郎ト申者ノ仕

業ニテ木調包金ノ封ヲ剪放シ正金奪取跡ハ銘ニ截立
入置又以前ノ如ク糊封ス其手際中ニ衆眼ヲ偷ニ足ル
所無ノヨシ更ニ巧黠ノ手段ハ金谷渡場小色平次郎ト
イフ字ヲ新ニ彫ラセ夫レヲ分割顛倒シテ神戸ノ町人
合場小平次トシカヘ凡贗封ニ歩判百兩包十七相製
同因ヘ相弘メ候ヨシナリ極姦大悪天網ニ罹リミハコ
、ロヨキ事ナラズヤ

覺

此度乞食共ノ内癢疾ノ者ヘ御救助被為在候御趣意柄

御仁恵ノ小ド深奉感戴候就テハ輕輩ノ私共ニ御座候
得共御趣意ニ基キ寸情ノ救助遣シ度心底罷在候處聊
ノ儀自己ノ計ヒ方甚心配罷在候依テ誠ニ以テ申出苦
敷恐縮ノ至奉存候得ドモ少、寔出金江度右御集金
端ヘ御差カヘ被為下候ハ本懐至極難有奉行忝此儀
同輩ノ者共ニ響合候様ニテハ心中相濟不申候間支等
儀可然御聞濟申出ノ趣相整候様不願憚此段奉願ニ
候已上

四月晦日

出納課附馬

坂井有章

此度在府諸官負出金ヲ以テ乞食救助相成候處是、
多事コリ十五等マデノ事ナリ等外ハ其數ニアラズト
イフ然ルニ此人等外ニ在リナカラ出金願出シハ甚
聞テ能ク遷ハモノト云フベシ

○御發輦御軍艦ニテ大阪並ニ中國西國筋御巡幸候
仰出候事

但御道筋其池巨細ノ儀ハ追テ可相違事
右ノ通御布告アリタリ

大阪新聞第五号

一當新聞 冊定價三錢 毎月二冊或ハ三冊出版致

シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明、巧器及ヒ諸品、賣買、弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札

○失物尋物等、勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十
錢三度分八十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五年申年 大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

東京两国若松町

同日本橋川瀬石町角

同日本橋一丁目

同芝三島町

西京東洞院三條上町

同二条高倉西八

大坂心齋橋筋一丁目

同北久堂寺町四丁目

同南本町四丁目

同本町四丁目

同備後町四丁目

同長堀橋筋一丁目

日新堂

村上勘兵衛出店

北畠茂兵衛

山中兵衛

村上勘兵衛

島林專兵衛

松邑九兵衛

前川源七郎

三木平七

梶田喜藏

梅原龜七

間部武助

所

弘

明治壬申五月

定價三錢

大阪新聞 第六號



緒言
 今也新聞紙ノ世ニ成ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
 フ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
 經世ノ益ヲ聞カンテヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
 中ヒトリ我浪華ノミ未ダ此舉ヲラサルヲ歎キ
 今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
 方ノ望ニ達シ日新聞化ノ成世ニ肩カサルノ微
 意ニ寄ルモ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
 サレテ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
 ラレテハ社中ノ幸甚之ニ過ン

大阪新聞第六号 明治五年申五月

○府下ホリスノ設ク有リテ以來夜不^フ寐^イシテ熟眠^シスル
 事ヲ得ハ實ニ難有事トリ然ニ近未知參事獨リ立ニ
 テ時々市街ヲ巡視セラレ細ニ下情洞察實見アルニヨ
 リテ下評ニハ近此ハ何事モ御政事ガハケ問シクナル
 トテ此ヲ稱シテ大ホリメト云フヨシサレハ鎖細ノ事
 ニテモソノ目ニフレ取ニ入ラヌ事ハナキ道理ナレハ
 惡ヲナス者ハ恐レ善ヲナスモノハ歎ビキ事ナリ
 乍恐口上

明治五十年

大阪新聞第六号

私儀

御當地ニ生産安穩渡世相營御國恩ノ程冥加至極奉存
 候然ルニ今般御改正ニ付テハ追々御仁恤ノ御布今拜
 兼奉恐伏候就テハ去廿四日四組中少年寄被召出御告
 示御讀聞被下其上結構ノ御教諭乍恐奉感伏候右ニ付
 微力ノ私九一ノ御恩奉報度候聊手元ニ貯置候金五百
 兩御海港至大御入用ノ端ハ御差加ヘ奉願上候御聞濟
 被為成下候ハ、難有仕合奉存候以上

明治五十年
四月廿五日

北大組第四區

龍田町少年寄

京極與兵衛印

總區長

磯野小右衛門印

大阪府

御願

御附紙

殊勝ノ至リニ付聞届候事

但シ出金ノ儀ハ規則相立候上可及差圖事

壬申五月

右ハ此度開港ノ御告示ニ感服シ出金相願候由時機ニ
 ヨク應シ着眼早キ入トイフベシ新港成就萬船蟻集恐

明治五十年

大阪新聞第六号

明治五年申年

大坂新田

〇

ラクハ速キニアラジ此等衆人ヲ鼓舞スルノ嚆矢ト云フベシ

〇飾磨縣管下ノ松頭小松丸新平五月二日薪積登同四

日吉野屋バシ邊通行ノ節三十計不見訓男ト風ト道連

トナリ無何氣伴ヒ行シニ四十計ノ男途上ニテ革財布

ヲ拾揚ルニ行掛り様子見受クハ内ニ金八十兩ノ仕

切狀賅ノモノ外ニ包金アリ彼男狼狽ノ体ニテ兩人ニ

向テ申ニハ御覽ノ通大金拾取候へ共此先キノ取計イ

カ致シ可申ヤ願クハ此事他ニ洩サズ三人分配イタ

シタシト談スルニヨリ兩人ハ怒同意シ分配ノ場所ヲ

約シ右證トシテ道連ノ男八兩ヲ出シカノ松頭十三兩

ヲ出シ都合廿一兩拾ヒ主エ相與へ兩人ニテ革財布ヲ

預リ途中ノ嫌疑ヲ避ントテ一旦其場ヲ別レシニ道連

レノ一人イツノ間ニカ行衛知レサレハ始メテ不審相

付キ財布改見ルニ附木五十枚計ヲ重子タル贖セ封ノ

由此船頭慾ニ迷ヒ彼等ガ術中ニ陥リ金ヲ奪ハルノ

ミナラス府廳ニ呼出サレ御吟味ニ相成リ多少ノ隙ヲ

費ス金ハ奪ハル一舉兩損ト云ベシ

中島新田
鳥屋新田
南新田

- 田中新田
- 市岡新田
- 泉尾新田
- 津守新田
- 今木新田

立賣堀北道四丁目備後屋喜六父喜西設起人ニテ外六
 名相結ヒ前書川西新田堤エ褚苗栽培ノ儀願出被差免
 當節植付最中ナル由當春以来勸業課ヲ設ケラレ大ニ
 府下人民職業成立ノ御世話アリテ是等有益ノ事件ハ
 何事ニヨラス御引立相成由種措追々相弘リ水流自在

ノ浪華ナレハ所々渡場ヲモ相設クルニ至ラハ其利益
 想フヘキナリ
 ○世ニ居候ト云者アリ漢ニハ之ヲ食客ト云此輩織ヲ
 バ耕ヤヤズ何ノ用ニモ立タス又他人ノ勤勞ノ一分ヲ
 乞テ糊口ヲ為ス者ナリ斯ク早シムヘキ者ニハアレド
 己レハ其早シキコトヲ知ラサルニヤ禽獸又ハ畜主ナ
 ド、呼ブキハ奮然トシテ怒ヲ發セリ然レハ禽獸ハイ
 ツレモ自ラ奔走シテ糊口ノ計ヲナシ未タ嘗テ同類ノ
 餘澤ヲ受ケテ生活ヲ為ス者アラスサスレハ居候ナル
 者ハ其實禽獸ニモ劣リシ者ナリ嘗テ聞ク人ハ万物ノ

月廿五日 三
 大坂新田第六号

靈ヲレ厄或ハ禽獸ダモ為サバルノ行ヒアリ手淫男色
食客自殺是ナリト我輩以爲ク既ニ食客ヲ為ス者ハ亦
必ス手淫男色ヲモ為セリ何ソ併セテ自殺ヲモ為サ、
ルヤ此輩善ク自殺ヲ為サハ天下ノ爲ニ一害ヲ除キ去
リ己レモ亦禽獸ニ如カサルノ名ヲ辱メスト云ベシ

日進學社購金錄

我川岬ノ造幣寮タルヤ古今未曾有壯大ニ建築シテ
百般ノ器械以テ精良ノ貨幣ヲ製ス其他分析精製所銅
貨鑄造所硫酸製造所硫酸室氣燈傳信機及鉄道瀛船ノ

設等悉ク具ハラザル所ナシ加之歐洲各國ノ人ヲ雇ヒ
其工業ニ使役セシム其景況恰モ小歐洲ノ者ヲナスニ
足ル今ヤ我輩職ヲ寮中ニ奉ス恨ラクハ聞學ニ暗ク質
問協議ノ際常ニ隔靴ノ憾ヲ免ヘス因茲同臭ノ者憤發
與起新ニ一塾ヲ開キ寮務ノ余暇師友ヲ會シ讀書勉勵
聊カ平日素餐ノ罪ヲ贖ヒ切ラ他日成業ノ日ニ期セ
ト欲ス諸君子願クハ我輩ノ微志ヲ憐察シ塾舎經費ノ
爲メ多少ニ不関投金アラハ大幸ノ至リニ不堪他日英
才輩出國家ノ用ニ供セハ又諸君子ノ厚意ニ酬ユルニ
足ラン

○来月廿五日天満祭ニハ松島ニ於テ大花火ノ催シテ
ルヨシ細工人ハ名ニ聞エタル伏見連中請負ノ趣ナレ
バ定メテ觀モノヲラントノ術説

○輕キ風邪ハ時日ヲ移サズ一度發汗スレハ葛根湯ヨ
リ遙ニ功能フルハ人々ノ能ク知ル處ナリ然ルニ其發

汗スルニ多クハ卵酒又ハ漿物杯ヲ用ユルヲ其常トス
予モ素ヨリ年来此法ヲ用タルガ先日或人ノ話ニ發汗

スルニハ冷水ヲ茶漬茶椀一杯程ニ允リ吞ミ加減ニ酢
ト砂糖ヲ和シ用ユルヨリ好キハナシ西洋人ハ皆ナ如
此スト傳授ヨリ怪シケントモ物ハ例シナレハ此此四

五度經驗スルニイカニモ其功効リテラズ暫ク蒲團ヲ
カヅキ横卧スレハ怒チ夥シク發汗ス實ニ奇ト云ハソ

妙トヤ云ハン獨リ西洋人ノ治療ニ巧ナルヲ感シ且傳
授シタル人ヲ疑ヒシヲ恥タリ是等ハ聞ケタル人ヤ都

會ノ人ハ疾ク其法ヲ知ルト雖モ速キ田舎ニテハ未タ
斯ル簡便ノ治療法ヲ知ラサルモ計リ難ケレハ今斯ニ

貴社ニ告ク願クハ我老婆心ヲ捨ズシテ新聞紙ニ記載
セラレ唯一篇而已ナラズ毎号此件ヲ出シ玉ハ、幸甚

不過之敬白
北邊ノ野夫
右投書ノ儘記ス

因ニ云風築ニハ舶来「カミル」一味ヲ一帖トナシ
初煎再煎ト煎ジ出シ相用ユ兩三日用レハ平愈セ
スト云事ナシ是モ洋人ノ説ニシテ東京ニテハ專
ハラ行ハル、ト云

○第四号一記載シタル市中每區ニ一小學校建營ノ御
告諭ヲ奉シ此節其設ヶ頻リニシテ已ニ三十四校モ建
築ニ決シタリ猶月々出願陸續不日七十九校全備ニ至
ルベシ是ハ當地御一新以來ノ大美事ナリトノ評アリ
各區區長戸長ハ日夜此一件ニ周旋奔走其勉勵感スル
ニタハタリ其中東十三區區長山行平右衛門ハ巨大美

麗ノ佳宅ヲ明ケ渡シ區中ノ學校ニ用ヒントノ企アル
由又祖先以來蓄藏ノ書籍數百部残ル所ナク此學校ノ
文庫ニ納メ左ノ告文ヲ出セリ又北十四區東十五區
ハ歐羅巴風ノ學校建築企アリテ其費用ハ區長戸長ニ
テ一時出財シ其成功ヲ遂ゲントス何レモ感賞スルニ
餘リアル尽カナリト云嗚呼如此篤志ノ長ヲ戴ク區中
衆人幸福何事カ之ニ過ン蓋シ公撰入札ヲ以テ舉タル
人ナレハ其見ノ高キモ又可感ナリ

告文

風ヲ遷シ俗ヲ易フルハ學ヨリ先ナルハ無シト今ヤ官

命アリテ毎區小學校ヲ設ケシム是子弟ヲシテ知識ヲ
長シ品行ヲ正シクセシムルニ有リ教化ノ開ケ文運
隆ナル豈ニ感戴セザル可ケンヤ此盛際ニ當リ憤發
畫カシテ子弟ヲ獎勵シ後來ノ基本ヲ立テヌンハ將ニ
何レノ時ヲカ俟ン然レトモ全區人貢ノ多キ其子弟ヲ
シテ盡ク入校シカタキ者ハ就テ書籍ヲ借リ隨意ニ讀
マシメ且入校スレトモ書ナキ者アラハ借覽ヲ許サレ
トス願クハ區内有志ノ諸君多寡ヲ論ゼス各所有ノ書
ヲ同聚ニ納メ小ノ積テ大ヲナシ是ヲ不朽ノ物トセハ
上ハ以テ 聖化ノ德ニ報シ下ハ以テ子弟ニ學ブ

ムルノ一端ナラシカ然レトモ敢テ諸君ニ強ユルニ非
ラズ殊ニ其意ニ任ヌノミ請フ亮察セラレン事ヲ

區長 山内平右衛門

右告諭ニ應シ今橋四丁目戸長草間貞太郎止濱五丁目
金井伊十郎ノ兩人モ和漢書籍西洋原書數十部ヲ納メ
タリト云善ヲ聞テ忽チ遷ルノ氣性又可恃人ナラズヤ
○新聞雜誌ニ曰五月下旬 主上龍驤艦エ乘御發碇伊
勢神宮并神戸港赤間關長寄鹿兒島邊御巡覽御帰程四
國大阪邊ヲ巡ラセラル、由御軍艦日進丁卯裝鉄孟春

攝津雲揚春日鳳翔筑波ノ九艦不度護送諸官省ヨリモ
 官員數名供奉セラル、ト云ニ品川港ハ測量トシテ既
 ○東京ヨリ横濱迄ノ鐵道落成シ五月七日ヨリ瀨車運
 轉相始メ諸人ノ乘車ヲ差免サル、由乘車規則如左

鐵道列車發時刻及賃金表

金貨	上		下	
	午後 四時	午前 八時	午後 五時	午前 九時
上等	片道 一圓	片道 一圓	片道 一圓	片道 一圓
中等	同	同	同	同
下等	同	同	同	同
	五拾錢	五拾錢	五拾錢	五拾錢
	横濱發車	只川到著	只川發車	横濱到著

小兒四歳迄ハ無賃十
 二歳迄ハ半賃金小包
 胴亂ノ類ハ無賃其餘
 目方三十斤迄ハ二十
 五錢三十斤以上六十
 斤迄ハ五十錢九一八
 六十斤迄ニ限ル

當新聞一冊定價三錢 每月二號或ハ三號出版致

シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
 割引二十冊以上引受分ハ二割引

一切望ニヨツテ出版スル事件

- 新發明ノ巧器及上諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀物集會等引札
 - 失物尋物等ハ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
- 右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
 一行三十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十
 錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局 敬白

明治五十年
大阪新聞

發行所
書籍會社

大阪本町四丁目

東京兩國若松町	日新堂
同日本橋川瀬石町角	村上勘兵衛出店
同日本橋一丁目	北畠茂兵衛
同芝三島町	山中市兵衛
西京東洞院三條上町	村上勘兵衛
同二条高倉西八	島林專兵衛
大坂心齋橋筋一丁目	松色九兵衛
同北久宝寺町四丁目	前川源七郎
同南本町四丁目	三木平七
同本町四丁目	梶田喜藏
同備後町四丁目	梅原龜七
同長堀橋筋一丁目	間部武助

明治壬申六月

定價三錢

大阪新聞
第七號



緒言

今也新聞紙ノ世ニ成ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カンコトヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ニトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新聞化ノ成世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレナハ社中ノ幸甚之ニ過ン

大阪新聞第七號

明治五壬申六月

○御布令

去四月以來十五歳以下ノ男女溺死ノ届七人ニ及ヒ是
全向暑ノ砌水遊イタシ從テ非命ノ死ヲ遂ゲ候儀ト深
惻然ノ至ニ候右ハ當人ノ不幸トハ申ナガラ畢竟兩親
教示ノ等閑ニ出候儀ニ付平日能々申聞セ不案内ノ場
所等ニテ水遊不致様屹度可相示事

壬申五月

○投書

新聞雜誌ト横濱新聞ニ郵便信書ノ遲着不達ヲ記載ス

月名五壬申
大阪新聞第七號

ルヲ見ル予思ラク郵便ハ飛脚屋ガ生活ノ為家業トス
ルモノト違ヒ僻境邊陲迄モ自由自在ニ信書ヲ往復ス
ル公私ノ大便利ヲ開カレ殊ニ堂々タル官貨ヲシテ取
扱ハシノ玉ヘハ斯ル間違ノアルヘキ理ナシト疑ヒシ
ニ此比懇意ノ者西京某エ一封ノ書ヲ贈ルニ日数七日
程ヲ過キ東京ヨリ届ケ来リテ終ニ信書ノ用ヲ辨セス
ト云話ヲ聞ケリ是ハ畢竟所々ヘ信書ヲ仕分ル混雜ヨ
リ東ト西トノ見違ニテ東京ノ部ニ入シモノナランカ
ト判断スルニ傍ラノ人云ニハ東京ト横濱トノ間違ナ
ラハ方角モ違ハサル故左程ノ間違トモ申シ難シ然レ

トモ東ト西トノ間違ニ至テハ往テ復ルノ方角違ナリ
間違ノ甚敷モノト云ベシト詰リケレハ又傍ノ人云世
界ハ圓キモノナリ方角ナラス故ニ東ニ往クハ西ニ往
クモ同一理ナリ何ソ往復アランヤト聴クモハ其理ニ
伏セリ予モ亦大ニ感シテ郵便ノ間違モ一理アルヲ悟
レリト云々

○御布令

今般乞食追拂ノ儀ハ全ク他籍無頼ノ者府下ニ漂流遊
惰ニ安シ其弊害不少人々カニ食ハハ御趣意ニ戻リ候
ニ付嚴重及布告候通ニ候然ルニ當管下不具ノ者可致

入籍町處無^レ之其家并親類ノ救^キ助ヲ可^レ受便リナキ無告
 ノ音ハ^ハ疾^ハヲ可^レ憐^ム御趣意ニ^モ基^キ官負一同出金ヲ以テ
 救助致シ遣候条此旨一同相心得町々ニテ取調當管下
 ノモ^ノニ相違無^キ之廢疾ノモ^ノハ其^モ寂^ク寄々々出張所へ
 早々可^レ申出事

右ノ通御達相成リシ処御救ヒ受候モノ終ニ七八人
 ニ不^レ過ト云フ是ハ全ク手厚キ御沙汰ニ打驚キ夫々
 町内ニ於テ世話致シ遣ス故カケ少キヨシ是リ真ノ
 廢疾無告ノ窮民トモ云ヘキナリ然ルニ全体府下ノ
 風俗一時ハ嚴命ニ畏服シテ此度ノ一掃ニモ至リシ

ナレ共年月ヲ經ハ又候舊ニ復スルタメシ不少何卒
 此節ハ乞食ニ一錢片食ヲ施スハ實ニ姑息ノ小惠ニ
 シテ埒^{ラチ}モナキコナルヲ悟リ永久此法相守リ人ノ容
 易ニ乞食ニナラス様^{ヤマ}ニナルトキハ是リ大惠ノ至リ
 ナルヲ知りタキモノナリ

○去ル十八日ノ夜天下茶屋近傍今官村ノ邊^{ホト}リナル畠
 中ニ年齢三十五六歳ノ女惣身五十八ヶ所ノ^キ疵ヲ受テ
 テ死シ居タル由街説ニハ此女ノ^マ間^ト夫ニ多助^ハオト云
 者アリテ深ク契^チリヨ込^コメ入目ヲ忍フ情ハ一層切ニシ
 テ生涯互ニ他ヲ顧ミ間敷ヲ約シ交情益深カ、リシニ

大坂新聞 第七号

多助イツシカ他ニ情ヲ運フノ愛婦アリテ是カ爲我契
情殆ンド離断セラレントスルノ勢ナレハ前日ノ違約
ヲ怒リ且ツ妬ミ屢妨ケラナサントセシコトアリシ由
故ニ多助奸婦ト相謀ツテ斯ク暴殺セシモノナランカ
其夜ヨリ兩人トモ行衛知レサルトノナリシカ果シ
テ御乱問アリシニ同人仕業ノ由ヲ自狀シタル趣ナリ
○此頃心学道諸先生ヲ御雇ニ相成徒刑所ニヲイテ刑
人ニ講釋聞カセラル、ヨシカノ先生勸懲ノ御趣意ヲ
巷談俚語ニ取交ヘ懇切ニ説示スニ聽衆往々感涙ヲ催

シ本心ニ帰向ノ者モ不少兎角人情苦シキ時ニ當リテ
ハ物ニ感シ易ク又感シタル事カ骨髓ニ徹スルモノナ
レハ彼テ懲シ是テ導キ竟ニハ数多ノ反正人出来ルナ
ルヘシ有カタキ事ナラスヤ或人ノ話ヲ斯ニ記ス
○浪華川寄造幣寮ノ盛大ナルハ衆ノ知ル所ニシテ毎
日鑄造高ハ金貨拾萬圓余銀六萬圓余ニ及フヨシ外國
長官ノ説ニ當時世界中日本ノ造幣寮ハ第一等ナルヘ
シト當節英佛「フロイス」ヨリ造幣器械澤山ニ着阪セリ
此器械備附ニナラハ是迄ノ鑄造高ヨリ三倍ノ出来榮
ラナスヘシトイヘリ此時ニ至ラハ宇宙内第一ノ造幣

寮トナルトノ也國家ノ爲ノ豈ニ賀シ奉ラサランヤ

○造幣寮官舎ヲ日進学社ト仮定シテ寮中ノ諸官員公

務ノ餘暇タ六字ヨリ九字迄洋学ニ勉勵シ益田莊作ヲ

社長トシテ現今生徒八十餘名等ヲ五級ニ別テ学費ハ

奏任判任ノ官負ヨリ投金有ケルトソ井上大藏大輔殿

右學社ニ臨マレ寮務ノ繁劇ヲ厭ハス各斯ク夜学ニ及

フコテ深ク賞セラレ学費金ノ内エ五十圓投セラレ尚

一層勉強イタスヘキ旨生徒中へ欽命アリシトソ

但造幣助遠藤氏ハ先年英國ニ留学アリテ帰朝後モ

専ラ研究セラレ當春同氏發起ニテ一塾ヲ設ケ教授

アリシヨリ斯ル盛業ニ及ヒシトソ造幣寮ハ最モ繁

劇ナルヲ同氏ト益田權頭ニハ毎夕生徒ト共ニ出頭

セラレ寮中ノ官負挙テ一ケ年ヲ出サル内英佛人ニ

對話スヘキヨウ致シ度トノ思慮ナルヨシ依テ西氏

相謀ツテ英人ノ教師ヲ雇入レ既ニ着阪イタセシト

ソ塾則日課ハ後号ニ出スヘシ

評者曰人ハ自然ヲ貴ハスシテ勉然ヲ貴フト勤学セ

サレハ道成ラス蒼生天性ヲ恃マスシテ此二三氏ノ

意ヲ懸ヒハ今日ノ民タルヲ耻サルヘシト

大阪新聞 第七頁

○過日今橋通精々舎開局後道修町西洋藥下品、分ハ
微ニ其價下落シ廉品所持ノ商人ハ之ヲ賣リ盡シトヲ
急クヨシ所謂頑夫モ廉ニ懦夫モ志ヲ立ルカ如ク本舎
ニテ試檢法始リナハ粗品ハ自ラ賣レサルトノ恐レト
リ尤同舎ハ西洋人ヲ雇入ル、ノ由ナレハ此上教師未
リテ試檢等ヲ始ルニ至レハ奉テ贖物地テ拂世医モ安
シノ真藥ヲ得ルニ至ルベシ加之右社中ニテ施藥ノ願
ヒニ由リ 御布告アリシ後ハ追々伍長戸長ノ添書ヲ
以テ施藥ヲ乞フ由徒来貧人ノミナラス間々医家ニ至
リ寬態ニ治療ヲ受ケ遂ニ謝義ヲ爲サスシテ後偶途中

ニ於テ其医ニ逢ヘハ面ヲ背ケ世間ヲ狭クセン者アリ
然ルニ同舎規則ノ如ク診察料藥價共取ルヘキハ之ヲ
取り施ス一キハ之ヲ施シ公明ノ所置トナレハ追々右
様世間ヲ狭クスル者モ止マルヘシ故ニ世医モ亦右ノ
方法ニ倣ヒ專ラ仁術ニ志スコトヲ勉ムベシ然ルキハ藥
ニ贖造ノ害ナク医ニ卑劣ノ心ナク病人ニ無謝ノ耻ナ
ク大ニ開化ノ域ニ進ミ一大美事ト云フベシ
○去ル二十八日夕八字比

聖上着 御 御端船運俵丸ニ召サレ川口運上所前波
止場ヨリ御上陸外務局ニテ御小休夫ヨリ御騎馬ニテ

明治二十八年八月二十日

行在所本願寺 御在ラセラレタリ兼テ御通行拜
 見ヲ許サレタレハ此日老幼男女未明ヨリ街衢ニ充滿
 奔走シテ炎暑ヲモ意トセスシテ着 御ヲ待チ奉リ皆
 萬歳ヲ唱トナフ御通行夜ニ入ケレハ市中戸毎軒提灯テウチンヲ出
 シ或ハランプガス燈點シ恰ツカモ白昼ノ如シ翌二十九日
 ニハ市民一統ヨリ 御安着ヲ祝シ奉リ永代演ニ於
 テ打揚ケ花火ヲ催シタリ同晦日曉第四字 御出輦ハ
 軒家元和歌山縣邸前演ヨリ 御乗舟西京エ 御巡幸
 在ラサセラレタリ竊ヒソカニ此度ノ御行装ヲ伺ヒ奉ルニ萬
 事至テ御簡便カンベンニテ供奉ノ官負上下総テ六十余名ノ外

近衛兵二小隊、御警衛アルノミ恐、多クモ
 至尊、御身トシテ如此御輕装ニテ尚九州迄ニ御巡幸
 在ラサセラレ親シタシ、民ノ疾苦ヲ問ヒ五フ御主意豈感
 戴セサルヘケンヤ世間尊大ノ舊習ヲ襲フ人宜ク願ミ
 テ世ノ寔遷ニ着眼アリタキモノナリ

供奉ノ官負左ノ通

徳大寺宮内卿

吉井宮内少輔

児玉宮内少丞

加藤弘之

池田宮内大録

櫻井宮内権大録

河瀬侍従長

醍醐侍従番長

高嶋侍従番長

堤侍従番長

堀川侍従

伏原侍従

明治五十四年七月廿六日

西四辻侍従

東園侍従

北条侍従

米田侍従

片岡侍従

有地侍従

高城侍従

毛利侍従

太田侍従

澤長丸

堤 亀丸

岩佐大侍醫

竹内権大侍醫

山川章喜

岩井克俊

重見大監

目賀田大馭者

宮下中馭者

元藤清馨

樹下雜掌長資之

松尾雜掌相克

松波雜掌資之

宇喜田雜掌可成

櫻井内膳正

千賀内膳権大令史

三好内膳少令史

森 力

金井徃近

松本義路

田中膳部朗久

村上膳部光保

井関調度中令史

正院

西郷参議

日下部少内史

若森権少外史

式部寮

橋本式部助

大藏省

熊谷大藏少丞

陸 軍

山縣陸軍大輔

西郷陸軍少輔

海 軍

河村海軍少輔

高屋海軍少丞

明治五年 大坂新開第七号

御巡幸御道筋

大手御門ヨリ濱殿ニ御順路御乗船品海ニ於テ御乗艦
 夫ヨリ 鳥羽 神宮御参拜 一泊 行在所文殿鳥羽大島大阪
 御二泊 行在所 本願寺伏見京都 御四泊 後日輪御陵御参拜伏見大阪 御二泊
 神戸御二泊 行在所縣廳 多度津 御二泊 姫島 御二泊 馬附 御二泊 行在所見膳
 長崎 御二泊 熊本 御四泊 鹿兒島 御四泊 細島是ヨリ 還幸御乗
 艦七晝夜過テ伊豆熱海へ着 御夫ヨリ海路御順次
 還幸ノ事

大阪新聞第七号畢

一當新聞一冊定價三錢 毎月二冊或ハ三冊出版致
 シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
 割引二十冊以上引受分ハ二割半引
 一切望ニヨツテ出版スル事件

- 新發明ノ巧器及上諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ニ物集會等引札
 - 失物尋物等ノ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
- 右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
 一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十
 錢三度分八十四錢ニテ引受出版致候

本局 敬白

明治五十七年

大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

弘

所

東京兩國若松町

同日本橋川瀬石町角

同日本橋二丁目

同芝三島町

西京東洞院三條上町

同二条高倉西八

大坂心齋橋筋二丁目

同北空寺町四丁目

同南本町四丁目

同本町四丁目

同備後町四丁目

同長堀橋筋二丁目

日新堂

村上勘兵衛出店

北畠茂兵衛

山中市兵衛

村上勘兵衛

島林專兵衛

松邑九兵衛

前川源七郎

三木平七

梶田喜藏

梅原龜七

真部武助

明治壬申六月

定價三錢

大阪新聞 第八號



緒言

今也新聞紙ノ世ニ盛ニ行ハレテ村老漁翁モ耳ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基經世ノ益ヲ聞カントラ樂ム然ルニ當時三府ノ中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四方ノ望ニ達シ日新聞化ノ盛世ニ負カサルノ微意ニ寄ルモ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラサルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セラレハ社中ノ幸甚之ニ過ン

大阪新聞第八号 明治五壬申六月

大阪船塲本町邊何某手代神戸ヨリ金子千五百兩所持蒸氣船ニテ帰りガケ船中ニ於テ右金子紛失致スニ付着岸ノ上其趣舟頭へ答置早速取締所へ申出候エハ直ニ邏卒五六人船中ニ来リ探索相成ル處敷物下ヨリ右金子出タル由然ルニ十兩札一枚不足ニ付段々吟味相成タル處乗組ノ中ニ年齢三十計リノ女アリテ此者ノシワザナラントノ見込ニテ唯今御調中ノ由因ニ云入ノ隙ヲ窺ヒ盜業ヲ働クノ徒素ヨリ可惡ト

明治五壬申六月 大阪新聞第八号

雖モ中ニハ盜ミ易キヨリ風ト出来心ヲ生シ誤ツモ
ノアルベシ如此ハ唯盜ムモノ而已罪トスベカラス
持主ニモ又廉漏ノ責無キ能ハス願ハクハ大金或
ヒハ大切ノ物品ヲ所持スル旅客ハ宜シク注意シテ
我不取締ヨリ人ヲ罪ニ陷レ官府ノ厄害ヲ釀シ自身
ノ損耗ト相成ル様ノ事無キ様ニ致度モノナリ

○六月四日 聖上西京ヨリ午後第三字造幣寮へ 着御
アラサセラレタリ同日朝造幣器械 天覽畢テ大阪
府へ 臨御此日夕五字ノチ府下人民一統ヨリ櫻宮
祠外ノ堤ニ於テ打揚花火ヲ 天覽一備フ同六日鎮臺

并開成所へ 臨御此日角力共ヨリ願ニ依リ造幣寮花
園内ニ於テ角力ヲ 天覽ニ備フ組合セ五十餘組順ヲ
追テ勝負ヲ分ツニ又逢ヒ難キ場所ナレハ各生涯ノ力
ヲ極メ競テ勝ヲ奏セントスルニ立合待テナシトノ令
アリテ中ニハ意外ノ負ケヲトリ又頓ニ新工風ノ奇
手ヲ施シテ勝ヲトリタルモアリテ餘程面白キ勝負ア
リタルトノ説アリ猶同夜同所ニ於テ西洋曲馬ヲ
天覽アラサセラレタリト云同七日朝第六字 御發輦
同所門前濱ヨリ川舩へ 乘御天保山沖ニテ 御本艦
へ召サセラレ海陸祝炮ノ式アリ

月廿五 壬午 三 大阪所司 八 二

○此度 御巡幸ノ御輕裝ニハ衆庶意外ノ驚愕ヲナシ街ノ評説虚實交喧シアルヒハ 至尊ノ威嚴ニ関ハルト云ヒアルヒハ真ノ 至尊ニハアラサルヘシト云ヒアルヒハ外國ニ對シ耻ルト云ヒアルヒハ不耻ト云ヒアルヒハ 至尊スラ如斯各分限ヲ顧ミスンハアルヘカラスト云フ是ハ畢竟愚夫愚婦ノ妄説ニシテ取ルニ足ラサルナリ唯可賀ハ時勢ノ變轉ヲ知ラシメ真ニ耳目ヲ一新スルノ裨益ニシテ人民ノ幸福ヲ未タス御仁奉ト云ヘシ然ルニ斯ニ解セサル一事アリ供奉官貞或ハ兵隊ノ中ニ僅一二泊ノ用ヲナス旅宿ノ不都合

ヲハケ間シク云ヒテ不平ヲ鳴ラス人アルヲ聞ク斯ル

難有 御巡幸ノ供奉中ニ如此人アルハ諺ニ所謂燈

臺下暗シノ理ニテ菓子屋ガ菓子ノ味ヲ知ラス醫師ノ

不養生ト云カ如キモノカ貴社ノ高論ヲ乞フ 右投書ニ依テ記載ス

○當地開成学校ハ當春以來何カ故アリテ英学生徒、

入門ヲ停メラレタリシカ五月廿七日百人ヲ限リテ入

学ヲ差許サレケレハ前夜第十二字前ヨリ生徒四方ヨ

リ集リ校門ニ市ヲナシテ或ハケツトナドヲ籍シキ扣ヒカヘ

居テ門ノ開クヲ待チ皆先ヲ争ヒ進ミシカ朝弟六字比

ニハヤ百人ノ數ニ充チ後レ至ル生徒五十人余ハ皆空

ク帰タリト云實ニ學問ノ道大ニ開ク文明進歩ノ世ト
ナ 國家ノ爲メ賀スヘキナリ

○五月廿九日富島^{フカイモト}ノ汽船已ニ發セントスル
時船掛リノ壯男^{ツカ}ノ鄰家ノ船宿ノ壯男ト爭論ニ及ヒ
互ニ罵リ合ヒシカ稍少クシテ事收ラントセシニ又鄰
リノ男ヨリ惡言ヲ發セシトテ船ノ男大ニ憤リ忽上陸
シテカノ男ニ抓ミ付キケレハ近鄰ノ人打寄リコレヲ
和解セントスレドモ互ニ奮激シテ挑ミ合ヒ容易ニ近
寄り得ザル内鄰家ニ蓄ヒラケル洋犬走り出テ夕チ
マチ脚ニ齧付シカハ双方不意ニ驚キ引キ分レテ爭論

ハ夫限リニテ止ミタリケレハ近隣ノ人皆犬ノ智ニ及
ハサルヨ語り笑テ事濟ミタリトソ

○當地高麗橋東詰南側ニ電信局ノ建營アル由
大阪府御布令

○葬祭ノ儀ハ人生ノ大禮ナレハ小前末々ニ至ル迄各
遺憾無之様其禮ヲ盡サシメ度所僧徒等自ラ尊大ニ構
ヘ衆物供連等寺格身分ヲ顧ミス大ニ潛上イタシ人ノ
哀憐悲傷ノ機ニ乘シ不當ノ謝物ヲ貪リ候段以ノ外ノ
事ニ候斯ル惡風有之候テハ身元不如意ノ者ハ孝子モ
其心ヲ盡ス能ハス深ク愍然ノ至ニ付向後潛上ノ所業

ハ勿論不人情ノ仕向於相聞ハ嚴重答方可申付候条急
度相慎ミ下民ノ難波不相成様厚ク心ヲ用ヒ佛門慈悲
ノ本意堅ク可相守事

右ノ通寺院へ相達候条一統相心得萬一違背ノ僧徒
有之候ハ、不閣可届出候

○九ツ戸数人口ヲ統計スルニ聾啞盲癩四体不良ノモ
ノモ之ヲ人ト謂ハサルベカラズ竹籬茅屋荆門草窠ト
雖モ之ヲ家トイッテ嫌ヒナカルベシ頃者大藏省編集
ノ府縣概表ヲ閱スルニ其初メニ全國中ノ人口戸數ノ
概表ヲ挙テ戸數、、、六十〇軒余。人口、、、

九十〇人余ト記セルモノハ如何ナル戸如何ナルヲ
以テ余外ノ部トナシテ計算スルヤ世間金穀ノ數ヲ
記載スルニ其極少ニ至テハ余ノ字ヲ用ユルモ戸數人
口ヲ算スルニ通用スベカラスコノ概表ノ如キハ別ニ
皇國中外ノ戸人外ノ人ナルモノアルカト疑思ノ中壹
人之ヲ解シテ云嚮者 官命アリテ穢多非人ノ称ヨ
廢シ庶人ト同視スト雖モ回襲ノ久シキ庶人尚蔑弄シ
テ與ニ交ハラズ今戸外ノ戸人外ノ人トハ此ノ如キノ
類ヲ算スルナラズヤト回テ大ニ笑フ
○第四号ニ記載スル開港告示ノ旨ヲ奉府下ノ豪商競

明治五年 大隈新聞第八号

ト立家産ヲ抛テ此事業ニ從事セン事ヲ希望スル者多クアル中二十人斗抽^キテ知事公ニ謁^ユシ一同申合約束ノ次第等逐一申上タル處速ニ告示ノ下ニ貫徹シ一同志シノ神妙ナルヲ歎バレ即時ニ左ノ和歌ヲ詠シテ賜ハリケレバ愈益奮勉ノ氣性増加セリト云フ

諸人の古^き流^りくをより令^らセ川^があひきよ^き路^をよろ^く國^の舟

○明石ノ舊留守居役ヲ勤^メシ大畱九十九ナルモノ當^レ地ニ於テ名高キ奢モノニテ常ニ歌妓舞童数名相携ヘ金装ノ佩カヲ荷ガセ四方ニ徘徊自由ヲ極メ居シニ府廳ヨリ過ル廿七日妾宅ニ於テ召捕ニナリタリ彼妾宅

ニ貯金諸道具夥敷有之就中刀劍入ノ筆^{タシ}笥^ス三四棹有之名刀充滿シ其裝飾ノ美中々王候ニモ勝^マリタルヨシ御不審ノ趣ハ分リ兼^テ共風説ニハ去未ノ税米六万石餘賣拂シ事件ノヨシナリ世ニ專ラ美奢ヲ極メルモノ數多アルナレ共多クハ一旦蹉^サ蹶^ケアル時ハ身ハ刑^{ケイ}戮^{リツ}ニ係リ家蓄ハ殘所ナク禿^{ゴウ}没^{ボツ}セラレ寵妾愛兒モ忽チ流落ノ身トナリ其盛ナル時ニ當リテハ見ルモノ欽羨セザルモノナシト雖モ事敗ルニ及ヒテハ面ニ唾シテ罵ラサルハナシ願ハタハ當時自由ノ權ト唱ヘテ我^ガ徒^ニ放蕩ニ日月ヲ送ル人々九十九ノ覆轍ニ鑿^キシ^{コト}諺^ナニ染ハ苦ノ

種苦ハ衆ノ種ト云意能々自反致シ度モノナリ

○六月三日ヨリ難波新地ニ於テ西洋人曲馬ノ閱場アリ其奇巧輕捷人ノ目ヲ驚スベク初日ヨリ看客熱鬧ナラント思ワレタリ

南大組第十三區

日本橋筋四丁目 鹿島屋安次郎借家

田中弥助

申百二戈

此度 御巡幸ニ付百歳以上ノ老人御詮儀有之古弥助難有モ 行在所へ召出サレ金千足下賜タリ此老人天壽

ノ高ヲ得ルノミナラズ 聖世ニメダリアヒ廣大府下又一人 巡輦ノ下ニ於テ斯ル賜ヲ受シハ余程幸福ノ人トイフベシ

○先比天神橋辺ヨリ上川筋へ舟行ノ便利ヲ表シテ水尾筋ニチヤン塗リノ小桶ヲ数百浮メラレタリ舟渡世ノモノハ暗夜ト雖モ通路ヲ辨シ其利ハ勿論ナリ或説ニ獨水尾筋ノ為ノミナラズ深キ御趣意ノアル事ナラシ是迄川浚へノ奨トシテ唯ニ近傍ノ人目ニ觸レ易キ処計リヲ掘リ鬼角遠近一様ニ手ヲ盡サヌモノナリシニ此印出来ノ上ハ手入ノ精廉モ一見シテ分ル事ナレハ

狡黠ノ手段ヲ冥々ノ内ニ防クノ妙計ナラント云

○六月二日晝四字比ヨリ鎮臺造兵司器械場出火アリ
早速市中消防人数駈付タリシニ筋金門ニテ鎮臺兵卒
制止シテ云フ市中ノ消防人ハ市中丈ケノ事故助力ニ
及ハズトテ一人モ門内ニ不入^{マウレツ}猛烈ノ炎烟天ヲ衝ク勢
ヲカノ消防人等ハ門外ニ佇ミ見テ在ル計ナリシニ其
処エ大阪府役員出張押テ踏込丈付ソイ入込事ヲ
得テ五字比鎮火ニ相成リタリ借前号ニ出ル今度御買
入ノ^レボ^レン^フモ御試ミ有シニ輕便ニシテ大ニ功ヲ奏セ
リト云門卒消防人ヲ止ル事ナクバ早ク鎮火ニモナラ

シニ幾万金ノ器械ヲ風烟ニ付セシハ可惜ニアラスヤ

右投書ニ因テ記載ス

○
御披露

浪花織

- 一 西洋^{冬夏}服地
- 一 男女帶地
- 一 羽織袴地

一 トッコ入織物

但染色模様等ハ御好次第出来仕候

右品々極上糸ヲ以テ織立極テ下直ニ賣捌申候彼ノ播
筑京博多ト唱ルモハ勿論本筑前博多織ヨリモ爲方

ヨロシク候四方、君子品價、精良奇機、精工等御覽
、上多少ニ限ラズ御注文被成下度奉希候以上

大阪北堀江通五丁目

織元大三輪長兵衛

大阪新聞第八号畢

一 當新聞一冊定價三錢 每月二號或ハ三號出版致

シ候哉元号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明、巧器及ヒ諸品、賣買弘札 ○店閤新規賣出シ觀ヒ物集會等引札

○失物尋物等、勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十
錢三度分八十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治壬申年七月

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

弘

所

東京西国若松町

同日本橋川瀬石町角

同日本橋二丁目

同芝三島町

西京東洞院三條上町

同二条高倉西八

大坂心齋橋筋二丁目

同北久堂寺町四丁目

同南本町四丁目

同本町四丁目

同備後町四丁目

同長堀橋筋二丁目

日新堂

村上勘兵衛出店

北畠茂兵衛

山中市兵衛

村上勘兵衛

島林專助

松色九兵衛

前川源七郎

三木平七

梶田喜藏

梅原龜七

真部武助

定價三錢

明治壬申七月

大阪新聞

第九號



緒言

今也新聞紙ノ世ニ盛ニ行ハ、テ村老漁翁モ耳
ヲ傾テ新説奇事ヲ聞ト知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カントヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新開化ノ盛世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモ、也同志ノ諸君宜シク見聞、足
ヲ助ケ一瑣事、新聞ト雖捨、勿ク寄贈セ
ラレトハ社中ノ幸甚之ニ過シ

大阪新聞第九号

明治五年申七月

○教法宗門ノ儀ニ付建言

宗門ノ事古今内外其害不少而爰法家学士議論スル處
最多シト雖モ未タ能ク是ヲ壓絶スル者アルヲ聞カス
終ニ米利堅ノ捨テ不問ヲ以上策トス然レハ是亦止ラ
不得ニ出テモルモシ宗ノ如キ倫ヲ乱シ俗ヲ壞ルモ如
何レスル不能ニ至レリ伏惟

御國古來ヨリ神佛ノ外宗門禁絶ニテ其害少シト雖レ
佛氏初テ東漸スルノ時厩戸皇子蘇我氏等ニ依附シ竊
ニ貴權ノ威ヲ盜ミ以テ己レカ慾ヲ逞フセリ爾後數百

年治乱幾回時世變遷スレ^レ其貴權ニ依附シ下民ヲ誑ウツク惑シ己レカ慾ヲ逞フスル^レハ未曾テ變スル^レナシ鴨

氷山法師

帝意ニ任セス三河ノ一揆武將モ不能壓況ンヤ地方ノ

官吏鄙鄙ノ下民其毒ヲ蒙ル勝テ言フ可カラス諸藩各

國ニ割據シ管内ヲ專制スル時スラ且佛氏ノ縉紳家ノ

威ヲ假リ横恣ヲ逞シフスルヲ苦シムハ人々皆ナ知ル

所ナリ

御一新ノ際 朝威更張カウキョウ群怪迹ヲ潛メ佛氏亦其凡ソツカ牙ヲ

収メ柔順猫兎ノ如シシカノミナス加之時運文明ニ進ミ匹夫匹婦モ

漸其奇怪妄誕ヲ信スル^レ無キニ至ラントス然レモ佛

氏ハ尚隙ヲ窺ヒ好ニ投シ僧ヲ汰スルモ敢テ拒寺ヲ

廢スルモ敢テ不辭口ニ勤

王ヲ唱エ面ニ柔順ヲ飾リ大ニ其慾ヲ逞セント欲ス始

メハ邪教ヲ防クヲ以テ名トシ漸諸官省ノ重職ニ迎接

シ

朝廷開化ヲ求サセラルルニ急ナルニ投シ洋行スル者

ノ世ニ貴重セララルルヲ知テ

大使發船ノ頃ニ當リ外教探索タンサク又ハ宗學修業ト唱ヘ枉

テ從行ヲ願ヒ暗ニ貴權ノ心ヲ攬トラントス其内地ニ留ル

者ハ更ニ愚民説諭ヲ名トシ己ニ其許^{キヨカ}河ヲ得テ諸國ニ
巡廻シ竊ニ無智衆民ノ心ヲ奪ントス然リ而シテ先般
神祇省ヲ廢セラレ教部省ヲ置カレ其令五ヶ條一ニ曰
社寺廢立及ヒ祠官僧徒等級^{トウキョウカクシキ}格式等ノ一ニ曰新ニ祠
官ヲ置キ僧尼ヲ度スル一三ニ曰教義ニ関スル著書出
版免許ノ一四ニ曰教徒ヲ集會シ教義ヲ講説シ及ヒ講
社ヲ結ノ者免許ノ一五ニ曰教義上ノ訴訟ヲ判決スル
事皆同省エ可伺トノ事四月三十日又令アリ曰教義関
係ノ事件ニ付キ神官僧侶等へ達ノ儀ハ教部省ヨリ其
教導職管長ヲ以テ直ニ可相達候右等ノ事件ハ神官僧

侶ヨリモ其教導職管長ヲ以同省へ可申出トノ一夫レ
神官僧侶ノ事教義ニ関セサル者ハ希ナリ而テ其教義
ハ都テ地方官治下ノ民事ニ関セサル無シ然ルニ地方
官ハ是ヲ紛轄是非スル一無キ時ハ何ヲ以民心ヲ定一
シ風化ヲ宣布スヘキヤ管內ノ人民心ヲニニシテ地方
官ノ令ヲ輕ンシ管內ノ神官僧侶ハ教部省ニ直達スル
ヲ特ニテ地方官ヲ凌ク一此令ヨリ起ラン前ノ五條其
一社寺廢立祠官僧侶等級格式モ地方官評論スル能ハ
ス民政ニ害アルモ害ナキモ不関唯彼等自ラ為ス俟ト
ナラン其二新ニ祠官ヲ置キ僧尼ヲ度スルモ彼等自ラ

勸メ自ラ撰フ処トナラン其三教義ニ関ル著書地方ニ
妨ケアルモ夙化ニ障アルモ無問彼等ノ欲スル処トナ
ラン其四教徒ヲ集會シ教義ヲ講説シ及ヒ講社ヲ結フ
者ノ其説地方ノ令ニ不合モ土地人心ニ流毒スルモ地
方官非議スルヲ能ハス直ニ教部ノ許可ヲ以テ驕然主
張スルニ至ラン且ツ多端煩細ノヲ教部省是ヲ取捨ス
ルノ暇アラシヤ其五教義上ノ訴訟ノ事實地ノ事情奸
曲百出詐譎百端ナルヲアランニ地方官ヲ不經シテ教
部豈能ク其実ヲ得ンヤ况ヤ亦民心ニ關係シ人民是ニ
連累スルヲアラントキ神官僧侶直達シ終ニ遙々東京

原

ニ往後シ職業ヲ妨ケ民事ヲ害スルヲ無キニシモ非ル
可シ右ノ五條四月三十日ノ令ニ依テ己ニ地方官ノ関
セサル處トナリ其弊害恐ル、ニ餘リアリ殊ニ教導職
ヲ置カレ其等級上ハ議長大輔大将ニ列シ下モ判任ニ
下ラス京都府管内ヨリ其既ニ撰任セラル、者先ツ一
ニヲ擧テ論セハ智積院弘現ハ寺内ノ沼ヲサルヲ以府
廳ヨリ遠出タ留メ糾弾中ノ者ナリ兩本願寺ハ管内人
民ヨリ負債幾十萬其内數十年久シキタ経返濟ノ約ニ
違ヒ金主ハ終ニ貧困為ス事無キノ苦シミニ陥リ府廳
ニ訴出ル者連々ナレ左支右吾年月ヲ遷延シ却テ擧

月台五 三 大反折用寫 〇

族ノ列々辱シ衣食住ヲ始メ家令徒者多人數ヲ養ヒ驕奢尊大ニ居リ人ノ貧困ヲ不顧如此者ニシテ教正タラハ其教ヲ受ル者亦如此シテ可ナラレ乎又五月四日教部省ヨリノ達シニ曰三月十四日當省置レ候以來四民ノ内僧侶得度及ヒ歸俗住職經目等總テ出願ノ向ハ其地方官ニ於テ事實詳細取調當省ヘ伺之上可請差圖トノ下夫得度住職等ハ教義ニハ關セサルカ九其宗意ヲ得可キ者ニ非サレハ得度セス教義ヲ知ル者ニ非レハ住職ス可カラス是教義第一ノ關係ニ非ル乎然レハ則前令ト齟齬スルニ似タリ又數萬ノ僧侶小々ノ寺院モ

盡ク教部ニ不伺ハ得度住職ヲ不得其煩雜可想且詳細ノ取調ハ地方官ニテ己ニ為之ハ教部ノ差圖ハ何ノ為ナル教部ノ差圖アル事ナラハ地方官取調ハ又何ノ為ナルヤ况其教義關係ノ下ハ僧侶等直ニ教部省ニ申スル下ヲ得ルニ於テヤ聞ク教部省ニ近頃僧徒等登庸ヒラレ官員ニ列スル由佛氏ノ百方計策シ根ヲ固クシ蔓ヲ長セントスル下知ル可シ而シテ其弊害ノ最深且大ナルモ亦可思可憂或人教部省官員ノ說ヲ傳ヘテ曰神主モ開化ヲ講シ僧侶モ開化ヲ説キ以テ王政ノ御趣意ヲ貫徹スト是匆率一時ニ用ユル詭計ニシテ文明進

歩ノ今日ニ用ユル一ニ非ス神官僧侶ヲ假ラサレハ開
化行ハレス 王政貫徹セザルトハ実ニ可歎ノ至リナ
リ況ヤ却テ開化ヲ妨ケ 王政ヲ害スル者ニ於テヤヤ
近頃海外諸國宗門ノ弊害ニ懲リ以太利亞王羅馬法王
ノ權ヲ殺キヒスナルク務メテ宗徒ノ政事ニ関スルヲ
黜ケ僧ノ僧ヲ撰擧スルヲ禁シタリト聞ク今ヤ開化策
進ノ秋ナリ妄誕怪異ノ宗門ヲ捨テ人民ヲシテ事理ヲ
辨エ人職ヲ盡シ文明ノ域ニ入ラシムル一是レ可務ノ
要タリ人民正ニ文明ニ進ミ佛氏ノ妄誕ハ捨テ採ラサ
ラントスルニ却テ官ヨリ僧侶ニ命シテ教正等ノ職ニ

任シ崇信ノ標トナサハ人ノ明ニ向フヲ更ニ誘フテ暗
ニ入ラシムルカ如クナラン將タ 御國ハ方今事務多
端費用莫太ノ時ナリ速ニ無用ノ誤事ヲ除キ無益ノ費
用ヲ省キ有用ノ事ニカヲ盡シ有益ノ事ニ賤ヲ用ユ可
シ不信妄誕ノ宗門ヲ保護シ小社ノ神官小寺ノ僧侶等
迄ヲ指揮進退スルハ堂々タル官省ノ急務ニハ非サル
可シ且其事ニ從フ官員ノ月給ヲ始費用實ニ莫太ナル
可シ又僧侶等外國ニ航スルノ費用モ是ヲ官ニ取ラサ
レハ必ス民ニ取リシナラシメ彼等自ラ其カヲ以テ賤ヲ
生スル者ニ非ス必ス巧言門徒ヲ誑誘シ其膏血ヲ絞リ

月五申年
シ賤ヲ欺キ取り是ヲ都下ニモダラシ己レカ驕奢ニ費
シ海外ニ齋^{モク}ラシ己レカ巧言^{クワチヨウ}誇張ノ用トナス試ニ春來
佛氏ノ事ニ費ス 公私之賤ト公私ノ午教ト時間トヲ
以テ是ヲ國家必用ノ道路ニ開キ学校ヲ建テ職業ヲ教
ズル等ノ事ニ用ヒハ豈一^{ヒトカト}廡ノ大益ヲ興サ、ランヤ抑
亦宗教ハ終ニ人民ノ撰フニ任セ萬一外國ノ宗教内地
ニ入ル^アアランニ如此内ニ佛教ヲ興隆シ宗派^{キヨウハク}凝固セ
シムルハ各宗相争フ^{カモ}ヲ釀スニ非レハ人民ヲシテ多
岐ニ感ハシムルナリ政府ノ人民ヲ教育誘導シテ共ニ
國家ヲ保護維持スル^シ^ル^ト豈誑妄虛誕ノ宗門ニ依頼ス可

シヤ仰願クハ
大政府深ク此ニ注意^{チウイ}シ妄誕ヲ未タ盛ナラサルニ黜ケ
患害ヲ未タ萌サ、ルニ防キ斯民ヲシテ速ニ蒙昧ノ惑
ヲ解テ文明ノ域ニ進マシメハ營^タ衆庶ノ大幸ノミナラ
ス 御國永世ノ大幸ナラン茲ニ地方事務ノ^サ障^サ碍^リヲ論
シ國家將來ノ患害ヲ慮リ憂苦ニ堪エス書言ヲ盡サス
言忌^キ諱^イヲ顧ルニ暇^イアラス細大請^リ瞭^ウ察^サ誠恐謹言
五月十八日
右ハ
京都府ヨリ正院へ建言ニ相成タル由傳聞ノ終記載ス

英人某ノ話ニ大阪ハ道幅狭ク又高低多クシテ車ノ往來ニ便ナラスル商法ノ盛ナル都會ニハ甚々不似合ナリ此道ヲ改正セシニハ車ノ税ヲ高クトリテ普請ノ費用トセハ上下共ニ益ヲ得ルト多カルヘシ併シ税金ヲ高ク掛ルトキハ乗車賃金モ随テ高價ナル理ナレハ便利ナラサルヨウナレトモ譬エテ云ハンニ今高麗橋ヨリ人カ車ニ乗リ川口マテ行クニ一字間ヲ費シ車丁カ尅歩ノ賃ヲトルヘシ然ルニ今又車ノ税ヲ増ストキハ三四倍モ増賃ヲ貪ルヘシト雖モ乗人ハ得心シテ其

増賃ヲ拂フ理アリ如何トナレハ諺ニ時カ金ナリト云如ク商法ナトハ半字四半字ノ車ヒニテ多分ノ損失ヲ生シ又働キ人ナトモ同様一字隙ヲ費セハ一字間ノ損アリサレハ道路平直ナレハ車ノ廻轉速カニシテ車丁モ勞ナク時間モ費エス是迄川口マテ一字テ達スルハ半字ニテ達スルトナレハ尅歩ハ一兩ノ増賃トナルトモ諺ニ勤定ハ廻轉ノ速ニシテ時間ノ費エサルヲ貴フト或人ノ話ヲ記載ス

○新聞函票告

我社 官許ヲ得テ新聞發閱以來幸ニ四方之望ニ適

月六日 申 大隈新聞第九号
ヒ毎號數千部ヲ頒送スルニ至ルハ偏ニ諸君子之助ニ
因ルモノナリ然ルニ此地ノ如キ大都會ニシテ毎月僅
々タル二三號ノ刊行ヲ以足レリトスルハ當社ノ大ニ
愧ツル所此般申合奮發興起今一層ノ盛大ヲ圖リ隔日
ニ發閱セント欲ス冀ハ大方之君子事之細大ニ拘ハラ
ス各所之奇事新説ヲ書キ集メ此函ニ投入シ耳目之及
ハサル所ヲ補ヒ社中之素志ヲ助ケ給ハ、幸甚豈之ニ
過ニ

壬申七月

書籍會社

右之新聞函ハ高麗橋心齋橋ノ二ヶ所ニ設置ナリ

一當新聞 刊定價三錢 毎月二號成ハ三號出版致

シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二

割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明、巧器及壽品、賣買、弘札 ○店開新規賣出、觀、物集會等、引札

○失物尋物等、勿論、田、地、山、林、賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版

一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十

錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

月六日 申 大隈新聞第九号

明治五年申年大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

東京兩國若松町

同日本橋川瀬石町角

同日本橋二丁目

同芝三島町

西京東洞院三條上所

同二条高倉西八

大坂心齋橋筋二丁目

同北久堂寺町四丁目

同南本町四丁目

同本町四丁目

同備後町四丁目

同長堀橋筋二丁目

日新堂

村上勘兵衛出店

北畠茂兵衛

山中市兵衛

村上勘兵衛

島林專助

松色九兵衛

前川源七郎

三木平七

梶田喜藏

梅原龜七

真部武助

所

弘

明治壬申七月

定價三錢

大阪新聞

第十號



緒言

今也新聞紙ノ世ニ成ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カントテ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサレテ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新聞化ノ成世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモノ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレナハ社中ノ幸甚之ニ過シ

大阪新聞第十号 明治五年申七月

○
木津川筋堀江ヨリ松島へ渡ル所ニ中央自在ニ開闔シ
大小ノ舟舶帆柱ヲ立テナガラ通行自由ナル新橋出来
予代寄バシト名付ラレ當月廿日知參事衆渡リ初メ相
濟タリ外國ニテハ此等ノ橋ハ數多キ事ナレ共
本邦ニテハ未タ此舉アルヲ聞ズ當地木津川ノ如キハ
萬船蟄集ノ川筋ナレバ橋有テハ舟行ノ難儀トナリ又
如従前舟渡ニテハ道頓ボク難波新地其外川東ノモノ
大ニ不便利ナリ今此名橋ヲ設ケラレ水陸ノ便一舉兩

明治五年申年

大阪新聞第十号

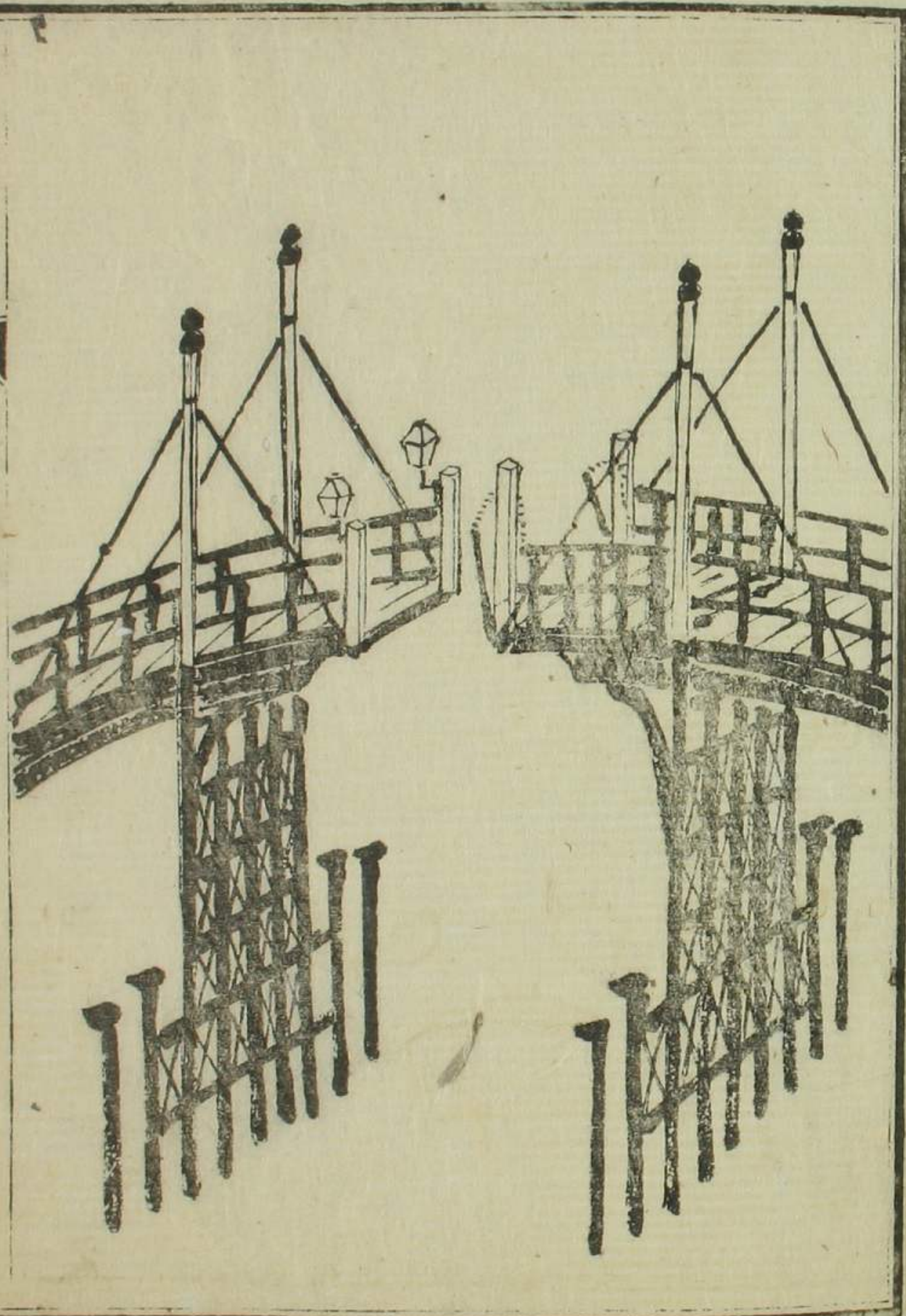
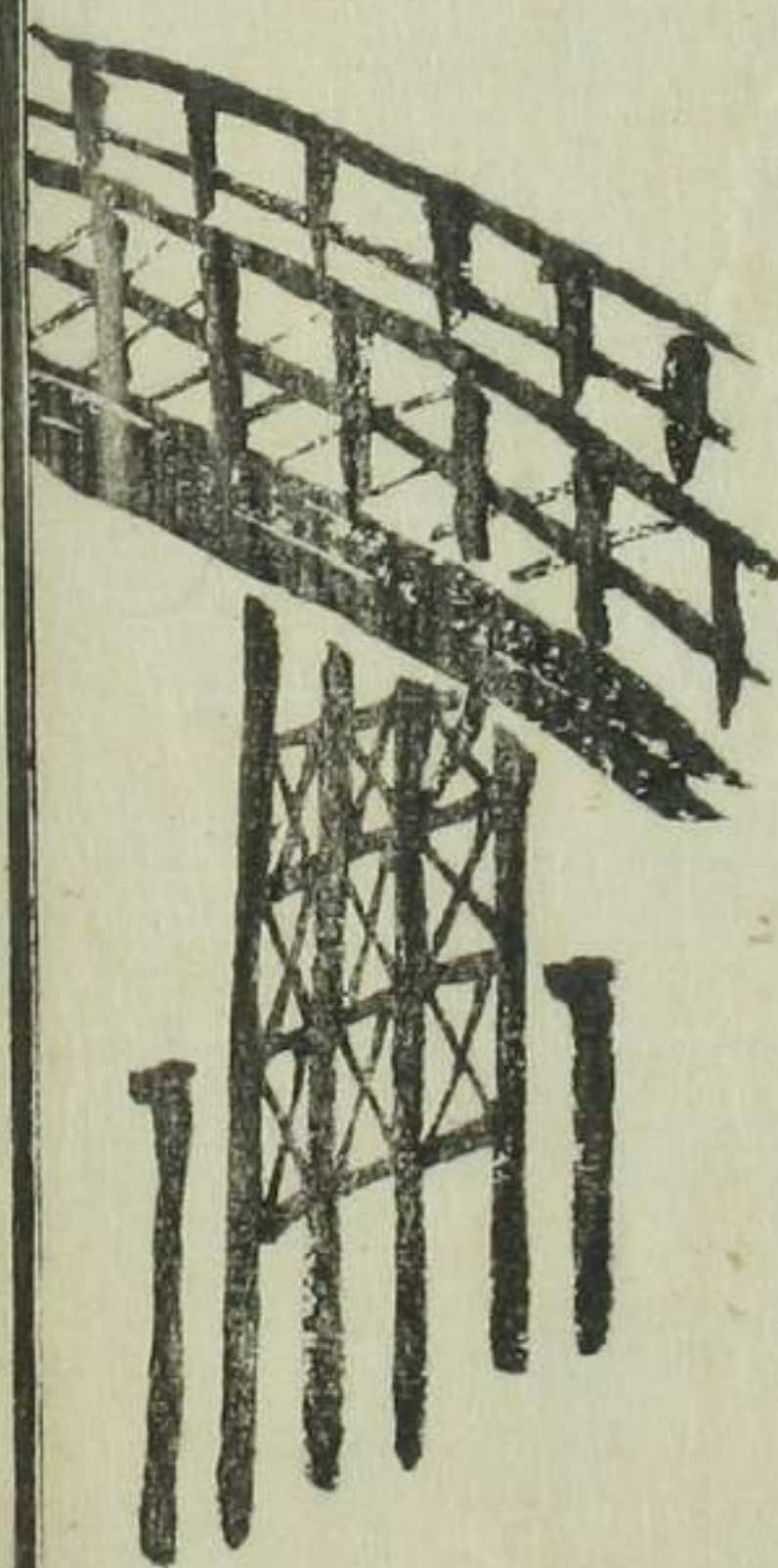
〇一

全トナリシハ世ノ開クルニ隨ヒ橋亦隨テ開ケ橋ノ開
 クルニ付テ人民ノ便利一ト方ナラザレハ追々頑固ノ
 風習モマタ次第ニ開ケルコトニナルベシト街説大ニ
 高シ願ハ蔡襄^{サイゴウ}カ萬安橋ヲ架セシ時紀功ノ大碑ヲ起セ
 シタメシニナラヒ高碑ヲ橋側ニ立テ萬世ニ光耀アラ
 ン車望ム所ナリ

橋長三三間 橋幅二丈二尺

欄干高三尺寸 橋臺六尺

ソリ九尺寸 中央開六尺



明治五年

大阪新聞第十号

〇一

○乍忍奉願候

今般於區中小學校御取開ニ相成候ニ付而ハ先達ニ豊國社御建營ノ儀奉申上候次第ニ付御懇諭、段厚キ思召ノ程奉感銘候依之右御入費ノ内へ頭書ノ通御差加相願度御採用被成下候ハ、重疊難有奉存候以上

壬申六月

金千兩

鴻池善右衛門印

金千兩

廣岡久右衛門印

金千兩

長田作兵衛印

金七百兩

長田作五郎印

御附紙 尋問ノ旨趣ヲ奉ジ殊勝ノ至ニ付聞届ル事

右ハ此四名ヨリ曩ニ豊公ノ社宇建營ノ為献金セシヲ出願セシニ先日府廳ヨリ左ノ尋問書ヲ御下ケ渡ニ相成タル由因テ忽チ可レ盡力時勢ヲ悟リ右ノ通出願セシモノト見エタリ善ヲ聞テ速ニ務ルノ良心在天ノ神靈モ社宇建立スルノ歡ヨリ十倍ノ歡ヲナシ玉フヲナルベシ尋問○豊公ノ社宇建立ノタメ先頃献金ノ願殊勝ノ至既ニ戊辰ノ筈 仰出サレモ有之義ナレハ速ニ取懸リ可申處退而豊公ノ雄志ヲ考ルニ今日天下日進ノ秋ニ當リ巨萬ノ費ヲ以テ社宇ヲ創建スルハ府

下人民ノ為廣益ヲ圖ル一助トナスニ如ズ抑モ府下ハ
豊公創業ノ地ナリ然ルニ日進ノ景況天下ニ後レ候而
ハ如何程社宇ノ善美ヲ盡候モ却テ在天神靈ノ意ニ戾
候ハ必セリサレハ曩ノ献金ヲ以今度一區一校ノ資ニ
充テ進歩ノ一助トナサバ神靈ノ歡亦知ベキナリ就テ
ハ時勢ヲ顧ミ緩急ヲ察シ今日ノ急ナルヨリ順序ヲ追
テ手ヲ下サバ社宇ヲ宏壯ニスルハ他日必ラズ其時
リ決シテ宿志ヲ空敷スルニハ無之奈能々相顧ミ見込
異同令尋問モノ也

去ル二日暮過永代濱橋伊兵衛ノ居宅へ邏卒兩人入り
来リ伊兵衛呼出シ詮議ノ趣有ルニ付帳簿等可指出旨
威勝^{イカシ}ケ間敷申聞カセリ然レモ伊兵衛ニ於テハ詮議受
クヘキ心當リモ無ケレトモ現在取締役人ノ事ナレバ
辭スルニ道ナク鎖鑰^{サヤク}ヲ啓キ差出シケレハ帳面ニハ目
ヲ不懸^{ヒタスラ}只管金ヲ探ル様子ニ驚キ密ニ下人ヲ取締所へ
馳セシム途中巡邏ニ出逢其趣申達セシカバ邏卒即刻
彼家ニ至リ見ルニイカニモ邏卒ノ躰ナリ不審トハ思
ヒナガラ卒爾ニ午モ下シ難ク姓名等詰問^{詰問}ノ内売人ノ
者刀ノ柄ヲ握リ身構ヘヲナシ売人ハ矢度ニ所持ノ棒

ヲ以打掛リ憤激突戰數次ニ及ビ終ニ壺人ハ取押ヘ壺人ハ透ヲ伺ヒ逃去レリ捕ハレタル者當節御調べ最中ノ由風説

評者曰府下數百人ノ邏卒晝巡夜邏不審ノ者アレバ忽チニ捕糺ス竊盜跡ヲ掃ニ庶シコ、ニ於テ盜却而捕午ニ擬シ市中ヲ眩惑ス巧術詭智至ラザル所ナシ恐ルベキ事ナラズヤ雖然察其顔色觀其眸子人何ゾカクサンヤ人ニ對スルニハ尤モコ、ニ注意スベキ事ナリ然ルニ世間如此巧術ノ惡徒ニ欺カレ賊ヲ掠メラル、者アリテ我不注意ハ省ミズ却テ官府ヲ惡シ

サマニ云モノアリは大ナル誤リニテ本書伊兵衛ノ心ヲ用ユルガ如クナレハ我財寶ヲ全フスル而已ナラス他日此賊ノ為人ノ巨害ニ羅ルノ患ヲ除ク餘程ノ良心ト云ベシ

○浪華謠

或人ノ作

浪華津ニ咲ヤ此花ト王仁カ歌ヨリ都ト開ケ彼漢士ノ子ガ住里モ今ハ魚鱗ニ建チ並フ民ノ竈モ賑ヒテ空ニ棚引煙コソ千里ノ末ノ國々ヨリ朝夕入来ル蒸氣船龍動巴里斯モ咫尺ニテ雁ヤ燕ノ便リヲ假ラス空ニ懸タル傳信線函ニ入レタル郵便券其神速ノ機關ハ地球

ノ上ノセマイ細工舞臺ニマガフ造幣寮ハ巴必驚城
 モ餘所ナラス鑲金彫玉四面ヲ圍ミ四角ノ貨ヲ圓ク作
 圓キ世界ニ流通セムト新ニ鑄出ス金銀ハ目ヲ轉ズレ
 バ幾千萬五歩ニ一樓十歩ニ一閣聳ヘテ見エシ煙出シ
 日本島根ノ鼻柱サモ彌高二造リ上ゲ萬世不朽ノ長策
 ト長キ川邊ニ懸渡ス黒鉄製ノ大橋ニ行カウ人ハ英米
 蘭人カ車ノ輕便ハ飛廉ヲ欺ク疾足ニ夥多ノ客ヲ曳テ
 行クイザ松島ノ鮮語ノ花傳譯モイラズ支那モヨク嫖
 客ヲ佛郎西コトモナク異國人ヲ大切ニスル一片ノ真
 寶ハ萬國御交通ノ趣意ニハ叶ヒ旨イ午段ノ西洋料理

天竺砂糖南京茶千里ノ味ヲ坐ナガラニ腹ニ詰メ込ム
 五經ハオロカ知慧ノ囊ヲ廣メント書籍會社ニ積重ニ
 江湖ノ新聞蟹文花字花月ノ事ハ打捨テ有用學ニ心ヲ
 用ヒ七十餘區ニ教諭ヲ布キ人ノカヲ黄金ニセント鍊
 リ造リタル洋製ノ小學校ハ霄ニ聳ス神童俊児ヲ音雲
 ニ推シ上クバカリ勸學ノ絃歌ノ聲ハ湧出ル如クワツ
 ト比耳ノ英才モ日ナラヌ中ニ出未ヌラム此有難キ大
 御代ハヨドムナキ淀川ノ清キ水モテ洗ヒ上ゲ一新
 開化ノ善政ヲ仰ガヌ者コソ無リケル

○京都府參事ヨリ大阪府參事へ書翰抜寫

天皇御滞阪御引請萬端御繁務ト致遙察候何モ御都合
ヨロシク濟サセラレ候趣奉_レ忍賀候於當地ハ山陵御井
ノ御歸路博覽場へ_{知恩}臨御出品一、天覽弟御案
内仕委細言上西陣新製ノ織物清水陶器御買上ゲニ相
成尚舎密所ニテ製出ノ品、近來檢出ノ炭酸水ナド御
用ニ相成申候

一 中學へ 臨御ノ節ハ於 御前ニ例ノ檢査仕備

天覽候生徒ノ出頭七百員位頻リニ人數ヲ減シタレド

モ親モ子モ聞キ入レズ終ニ右ノ員ニ及ビ候

一 歐學會女工所へ 臨御ノ節教師へ羽二重一匹賜之

勅語有リ女生徒ハ 天皇ノ玉坐ニ着サセラル、ヲ見
テ一同立テ英語ニテ萬歳ヲ祝シ奉レリ云々

此頃何某一妓ヲ携へ住吉へ參詣夜ニ入り人力車ニ並
乗シテ歸路車中ニテ密ニ淫車ヲ行ヒ何氣ナキ躰ニテ
難波新地アタリニテ車ヲ下リ約ノ如ク賃錢相渡スニ
車牽云フ此車ハ常々住吉へ社參ノ客ヲ載ル故甚タ不
淨ヲ忌ミ避ルナリ先刻路上ノ御様子ニテハ車大ニ汚
レ後來ノ神罰恐ルベキ事ニ付何分此車買取呉様手強
申募リ色々相断ト雖モ更ニ不聞入竟ニ受分ノ金子ヲ

與へ漸々事濟タリトノ風説

評者曰神ハ至明正直ナルモノナリ何某賽神ヲ名トシ亂行ヲ恣ニス因之神罰即中カミランカラサス不キヨダ回踵忽チ許多ノ金ヲ取ラレケリ然ルニ世上追々開化ニ赴キ何事モ罰金ニテ相濟ム事トナレハ神亦其法ヲ用ヒ車牽ヲシテ罰金ヲ取ラシムルモノカ神慮ノ高妙可恐ニアラズヤ

高津早三番早ニ米搗口入ヲ渡世トスル某ノ子富藏當年十一月廿ナリ六月十三日新地ノ川ニ遊ヲヨギ戯セシガ岸ヲ

攀ヨガ陸ニ上ラントスルニ水底スイテイ淤泥ヲイニシテ足アシ下自由ナズ遂ニ沈ナシ溺テキス隣家ノ人之ヲ見テ駢ツボル付引上ケレレ最ツ早氣絶セリ急キ医師ヲ招キ治療スレレ遂ニ蘇ソ生セイセズ然ルニ人品高キ四十餘ノ人其店先ヲ通り掛リ此体ヲ見テ内ニ入り此兒ノ療治致遣ハスヘシトテ家内ノ者へ米六外程ヲ炊カシガセ其飯ヲ蒲團ノ上ニ敷シキ廣ヒロゲ團扇ウチワニテ煽アロギサソ冷ケイシ輕クイ暖ダニニナリシコロ其上ニ右兒ノ死躰ヲ置キ海苔ノ酢ハシノ如ク卷置シガ暫クシテ右兒コキユウ呼吸キセリ即チ躰ヲ逆サカサマニシテ吐ト水スイサセ脊中ニ灸ツツヲ三所スレハ漸々精氣セウキ付キ翌日ニ至リ全快ス家内ノ者大ニ悦ビ右療治セシ

人ノ住所姓名ヲ尋レバ云ハズ唯兩親ノ一禮アレバ事
足レリトテ出行ケル其人ノ咄ニ凡ソ溺死ハ時刻ノ長
短ト大人小兒ノ差別ニテ米ノ多少ト炊キ加減アリト
云フ右見ノ親ハ押シテ姓名住所ヲ問ハザルヲ残念ニ
思ヒ且奇方ニテ小兒ノ助命スレバ新聞紙ニ載テ廣ク
世人ニ示シ萬分ヲ禮謝スルノ心得ニテ會社ニ頼出タ
此^リ次十一号末ル十七日ヨリ隔日出板致候方今開化日
進車機多端ナレハ其期ノ後レス事實ヲ據テ四方ニ布
宣セント欲スル為ナリ
會社敬白

一 常新聞 刊定價三錢 每月二號或ハ三號出版致

シ候數號号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引
一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ニ物集會等引札
○失物尋物等ハ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十
錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局 敬白

明治五十四年 大阪新報

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

弘

所

東京兩國若松町	日新堂
同日本橋川瀬石町角	村上勘兵衛出店
同日本橋一丁目	北畠茂兵衛
同芝三島町	山中市兵衛
西京東洞院三條上町	村上勘兵衛
同二条高倉西八	島林專助
大坂心齋橋筋二丁目	松色九兵衛
同北久堂寺町四丁目	前川源七郎
同南本町四丁目	三木平七
同本町四丁目	梶田喜藏
同備後町四丁目	梅原龜七
同長堀橋筋一丁目	真部武助

